彦 根 市 の 環 境

（環境の状況に関する年次報告書）

平成 23 年（2011 年）1 月

彦　　根　　市

彦根市の環境
（環境の状況に関する年次報告書）

平成２３年（２０１１年）１月
発行　彦根市
〒522-8501　彦根市元町４番２号
彦根市役所市民環境部生活環境課
TEL 0749-22-1411　FAX 0749-27-0395
E-mail kankyohozen@ma.city.hikone.shiga.jp

この冊子は、古紙 70%再生紙を使用しています。

この報告書は、部作成し、１部当たりの印刷単価は 124 円です。

ただし、企画・原稿作成等にかかる人件費は含んでいません。

彦根市低炭素社会構築都市宣言

わたしたちは、化石燃料の利用により、豊かで快適な生活を享受してきたが、二酸化炭素などの温室効果ガスを大量に排出した結果、地球的規模の温暖化を招くに至った。

この地球温暖化は、異常気象の頻発による自然災害の激化など、人類の生存基盤である地球環境に大きな影響を与えており、早急に、温室効果ガスの排出量が少ない、持続可能な社会システムを構築する必要に迫られている。

この人類共通の課題を解決するため、わたしたち彦根市民は、低炭素社会の実現が自らの責任であることを自覚し、あらゆる分野において温室効果ガスの排出削減のための行動を実践することを誓い、ここに彦根市を「低炭素社会構築都市」とすることを宣言する。

（平成２０年７月７日宣言）

は　じ　め　に

近年、世界各地を襲う様々な異常気象が、テレビを通して我々にその猛威を見せつけています。日本でも、ここ数年ゲリラ豪雨が多発し、車や住宅が流され、死者が出るなど大きな被害が出ている地域もあります。また、今年度は竜巻による被害も各地で相次ぎました。本市では、近年、大きな気象災害に見舞われてはいませんが、世界各地で起こっているような異常気象による被害が、いつ私たちの暮らしに襲いかかってきても不思議ではありません。

これまでになかったこのような異常気象は、地球温暖化と関係していると言われています。私たちが石油や石炭などの化石燃料を大量に消費することにより、二酸化炭素などの温室効果ガスが大量に排出され、その結果温暖化が進行しています。私たちは今、このような現状を認識し、地球温暖化防止に向けた対策を行なわなければなりません。そして次の世代へ持ち越す課題を少しでも減らしていけるよう、努力していく必要があります。

地球温暖化が進む中、それを食い止めようと、自治体や企業、市民団体等、様々な団体が環境に関する多くの運動を展開しています。本市においても、平成１４年９月には、本庁をはじめとする市の施設において、環境マネジメントシステムの国際規格であるＩＳＯ１４００１の認証を取得したほか、温室効果ガスの排出削減の行動を実践するため、平成２０年７月に「彦根市低炭素社会構築都市宣言」を行いました。さらに、住宅用太陽光発電システム導入補助金や、低公害車の導入、緑のカーテンの設置などに取り組み、子ども達や市民・事業所などへ環境出前講座やフォーラムを通じて地球温暖化防止対策を進めています。

また、彦根市と愛荘町、豊郷町、甲良町、および多賀町は協調・連携をとりながら、圏域全体の生活福祉の向上と地域振興を図るため、新しく湖東定住自立圏形成協定を締結しました。その一環として環境部門では、「緑の分権改革推進事業」を進めており、バイオマス資源の有効活用に関する調査や、太陽光発電設備の設置を行う市民発電所設置の実証調査事業などに取り組んでいます。

様々な取組みは、それぞれが別々のものではなく、相互に作用してこそ実を結びます。さらに、ひとつひとつを進めていくためには人と人との結びつきが大切です。地球温暖化を防ぐため、私たちの暮らしを守るため、彦根市はこれからも市民・市民団体・事業者・市、それぞれが協力・協働して、環境にやさしいまちづくりに取り組んでいけるよう努力してまいります。

本書は、「彦根市環境基本条例」第２２条の規定に基づき、本市の環境の状況について報告書としてまとめたものです。私たちになじみの深い「水」や「大気」に関する調査結果から市民団体による環境保全活動に至るまで、本市の環境に関する内容を収めています。本書が、市民の皆さまをはじめとして、より多くの方々にご活用いただき、彦根市の現状を理解いただくとともに、環境保全への積極的な行動につなげていただければ幸いです。

平成２３年（２０１１年）　１月

彦根市長　　獅　山　　向　洋

目　　次

１．彦根市の概要

（１）　地　　勢　　‥‥　１

（２）　人　　口　　‥‥　２

（３）　産　　業　　‥‥　３

（４）　交　　通　　‥‥　４

（５）　土地利用　　‥‥　５

（６）　気　　象　　‥‥　６

２．彦根市の環境行政

（１）　行政組織　　‥‥　７

（２）　審 議 会　　‥‥　７

（３）　環境施策（事業）の体系図　　‥‥　８

３．環境の現状

（１）　水　　質

①河川の水質　　‥‥　１１

②地下水の状況　　‥‥　２０

③琵琶湖の水質　　‥‥　２１

④十王村の水　　‥‥　２３

（２）　土　　壌　　‥‥　２４

（３）　大　　気

①大気質の現況　　‥‥　２６

②浮遊粒子状物質　　‥‥　２７

③光化学スモッグ　　‥‥　２９

（４）　騒 音 ・ 振 動　　‥‥　３０

（５）　廃　　棄　　物　　‥‥　３５

（６）　生活排水対策　　‥‥　４１

（７）　自　然　環　境　　‥‥　４３

（８）　地　球　温　暖　化　　‥‥　４３

（９）　保　存　樹　木　等　　‥‥　４４

４．公害防止対策

（１）　公害苦情の状況　　‥‥　４６

（２）　公害関係届出状況　　‥‥　４７

（３）　公害防止および環境保全に関する協定‥‥　４８

５．環境保全に向けた取り組み

（１）　環境基本条例　　‥‥　４９

（２）　環境基本計画および地域行動計画と関連組織　‥‥　５０

（３）　低炭素社会の実現と持続可能な社会をめざして　‥‥５３

（４）　良好な環境の保全に向けて‥‥５６

（５）　資源循環型社会の推進のために　‥‥５７

（６）　市民と取り組む環境保全活動　‥‥５９

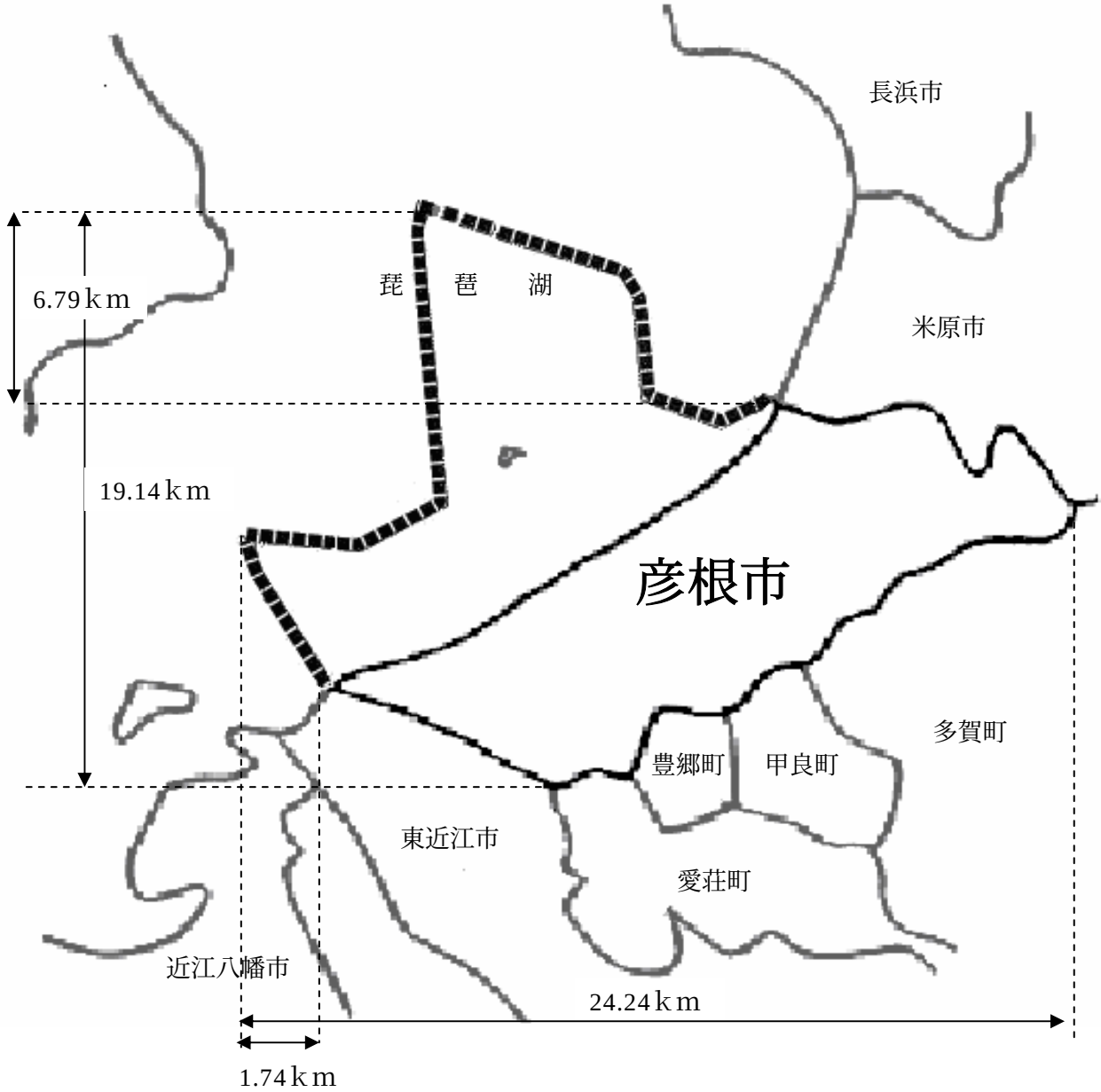
６．用語の解説　‥‥６３

１　彦根市の概要

（１）地勢

本市は、琵琶湖の東北部に位置し、西は日本一の湖・琵琶湖、東は緑美しい鈴鹿山脈を望み、その鈴鹿山脈から流れを発する芹川、犬上川、宇曽川、愛知川等が中央の平野部を横断し、琵琶湖にそそいでいます。

彦根市（市役所）の位置‥‥東経１３６°１５′　北緯３５°１６′
面　　積‥‥１９６．８４km^2
（琵琶湖の面積：９８．６９km^{2}を含む）
高　　度‥‥最高６８２．２m　　最低８５．６m
地　　域‥‥東西２４．２４km（湖面域：１．７４km）
南北１９．１４km（湖面域：６．７９km）

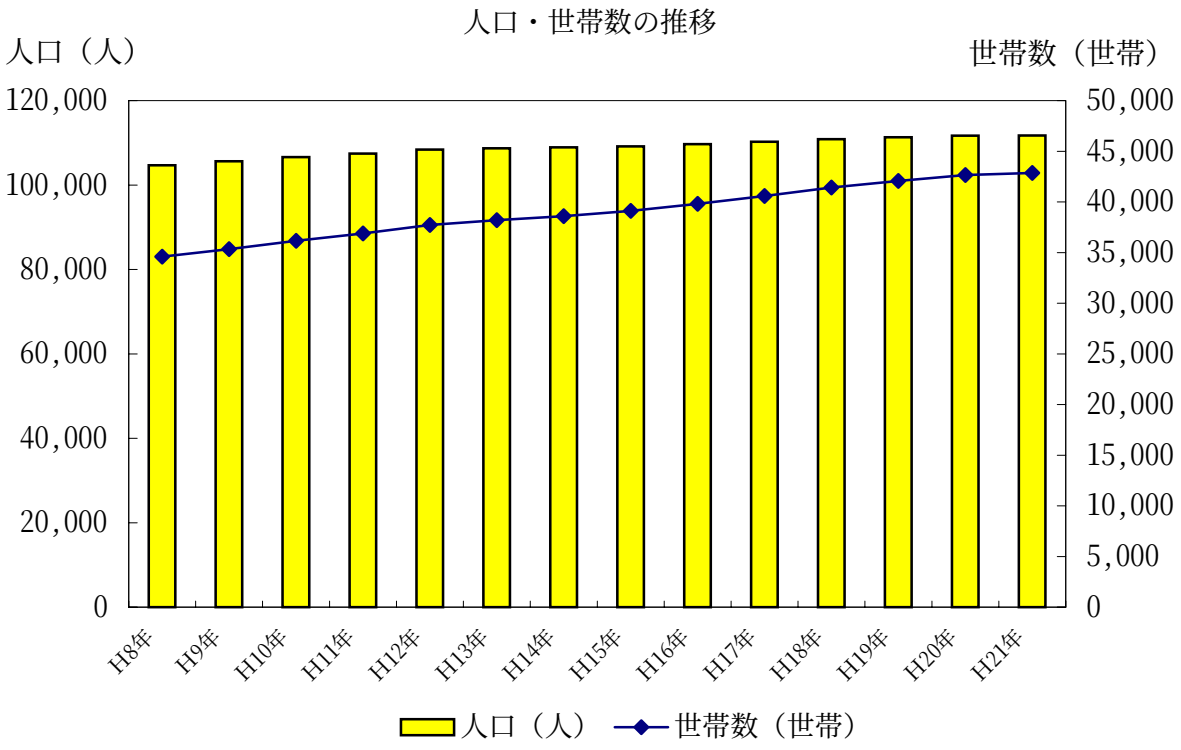


（２）人口

人口・世帯数

年　次	人　口　（人）			世帯数（世帯）
	男	女	総数	
平成　８年	51,485	53,192	104,677	34,596
平成　９年	51,968	53,673	105,641	35,333
平成　１０年	52,426	54,172	106,598	36,157
平成　１１年	52,897	54,565	107,462	36,893
平成　１２年	53,333	55,055	108,388	37,733
平成　１３年	53,466	55,221	108,687	38,201
平成　１４年	53,509	55,419	108,928	38,600
平成　１５年	53,661	55,514	109,175	39,123
平成　１６年	53,894	55,794	109,688	39,818
平成　１７年	54,124	56,121	110,245	40,584
平成　１８年	54,522	56,338	110,860	41,414
平成　１９年	54,744	56,566	111,310	42,068
平成　２０年	55,018	56,692	111,710	42,659
平成　２１年	55,025	56,726	111,751	42,863

（各年１０月１日現在）



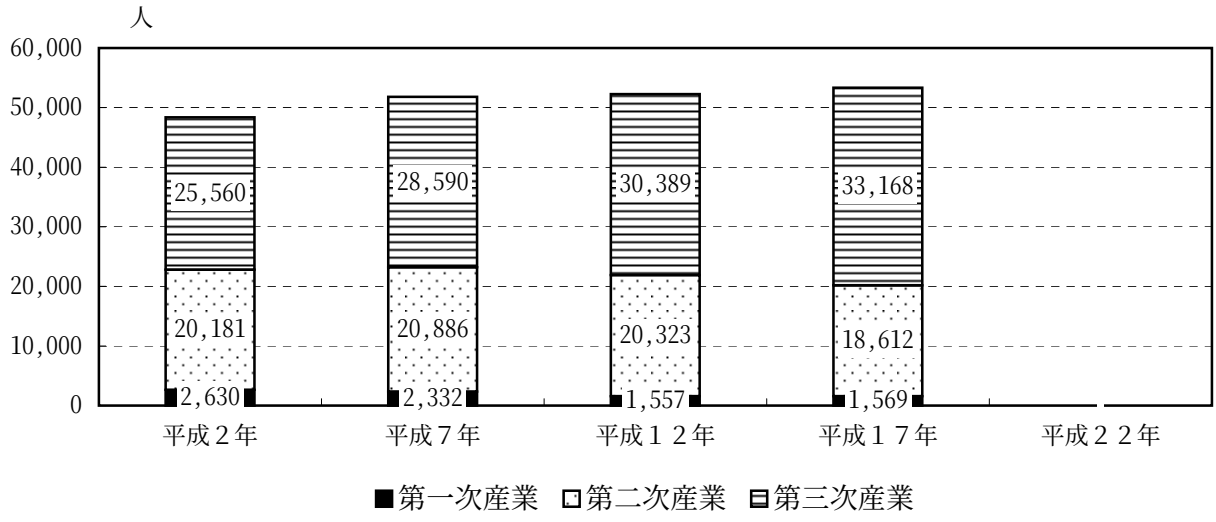
（３）産業

産業別就業人口

区　　分	就業人口(人)	構成比(%)
第一次産業	1,569	2.89
農業	1,505	2.77
林業	10	0.02
漁業	54	0.10
第二次産業	18,612	34.31
鉱業	10	0.02
建設業	3,704	6.83
製造業	14,898	27.46
第三次産業	33,168	61.14
電気･ガス･熱供給･水道業	253	0.47
情報通信業	443	0.82
運輸業	2,436	4.49
卸売･小売業	9,415	17.36
金融･保険業	1,086	2.00
不動産業	442	0.81
飲食店、宿泊業	2,861	5.27
医療、福祉	4,297	7.92
教育、学習支援業	2,756	5.08
複合サービス業	612	1.13
サービス業(他に分類されないもの)	6,944	12.80
公務(他に分類されないもの)	1,623	2.99
分類不能の産業	898	1.27
総　　数	54,247	100.00

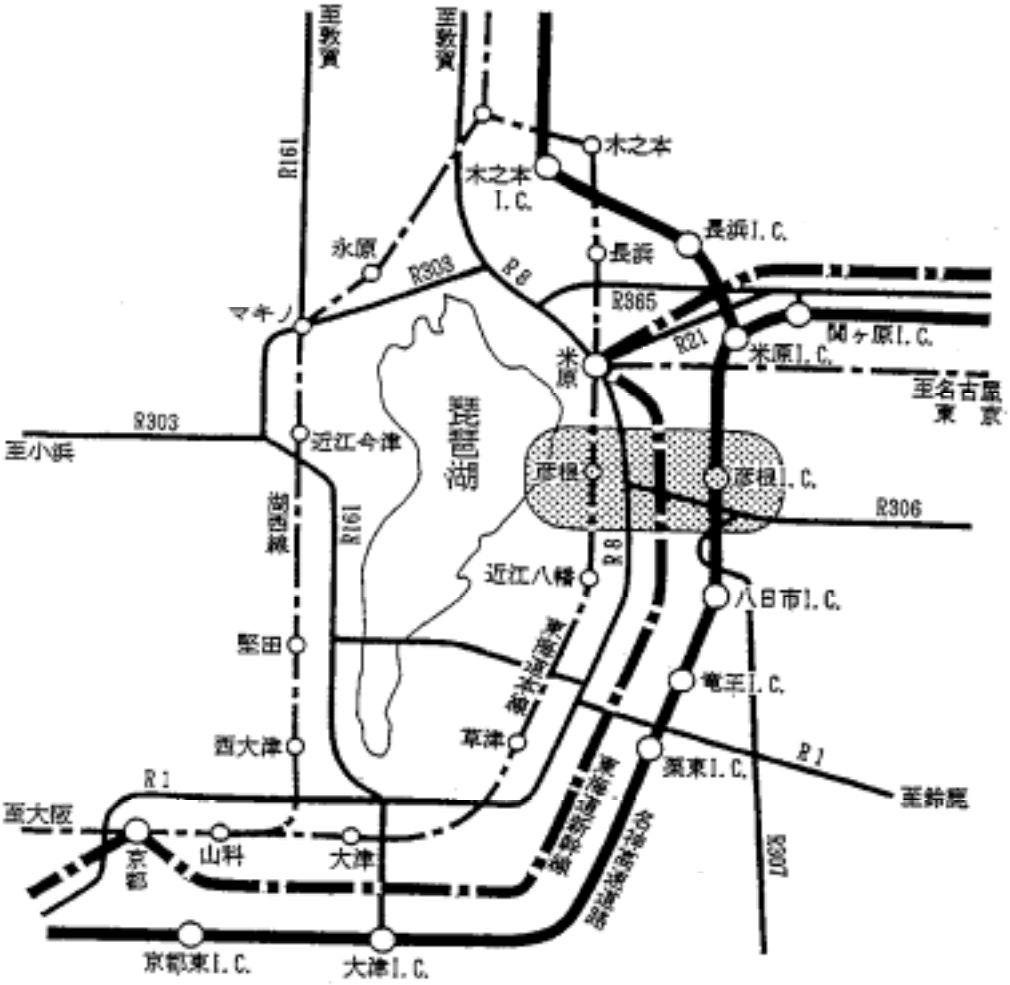
（平成１７年１０月１日現在　１５歳以上）

産業別就業人口の推移



（４）交通

鉄道および主要幹線道路図



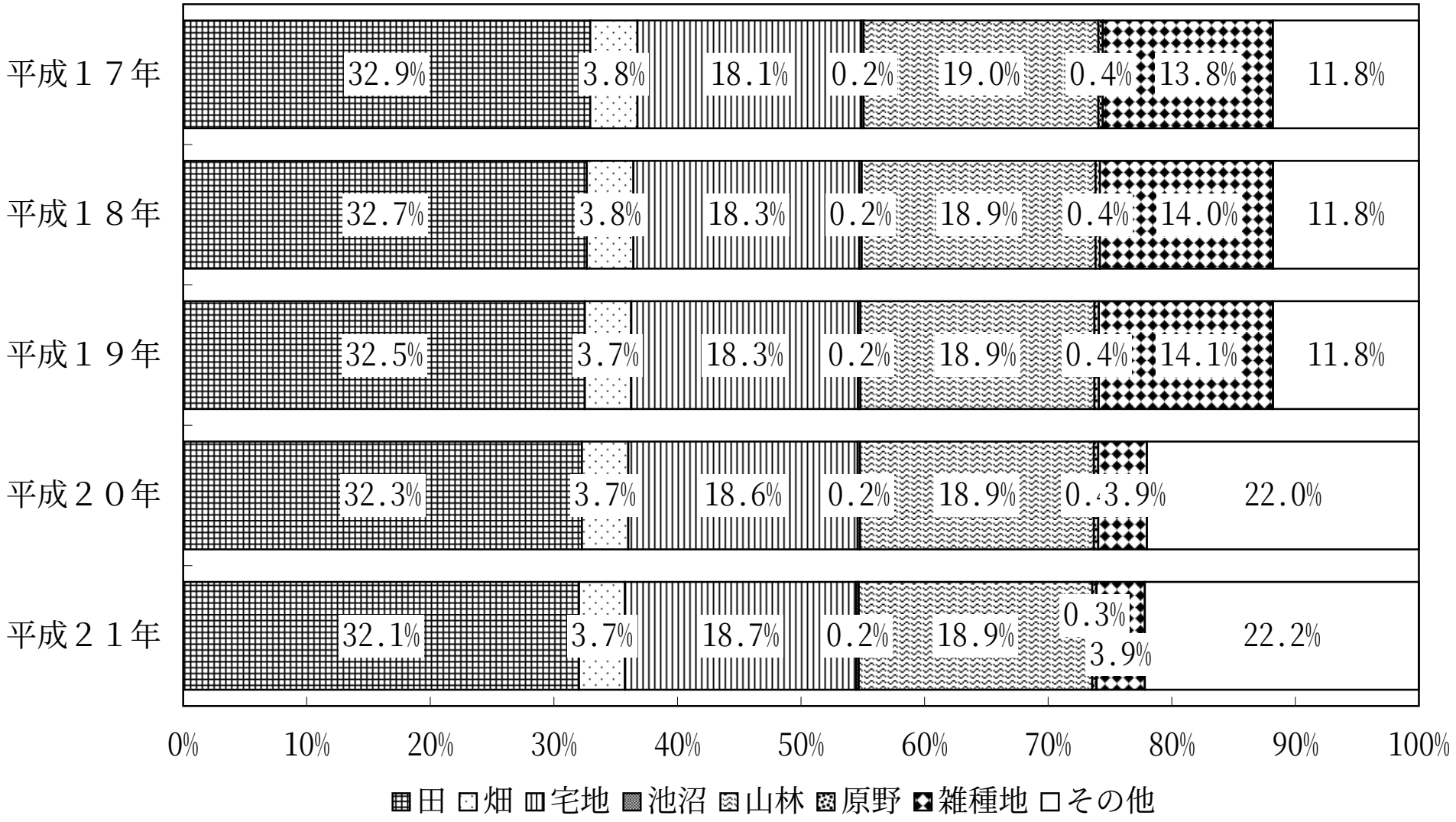
自動車保有台数

（単位：台）

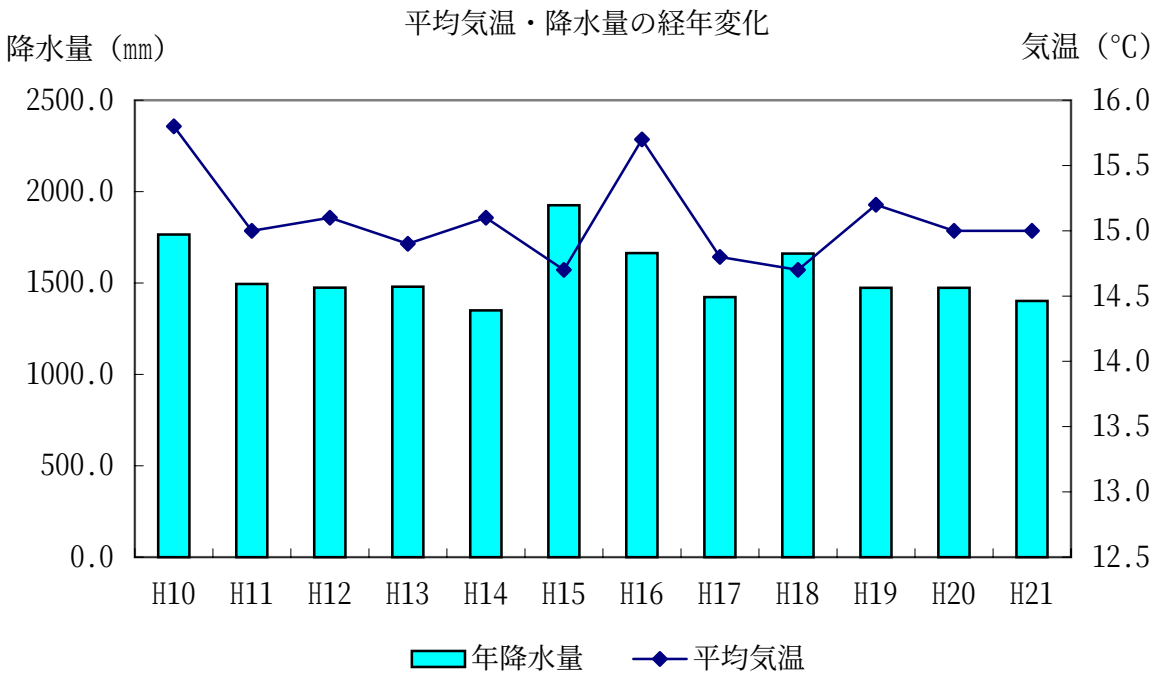
車種 / 年度	登録自動車数					二輪・軽自動車				合計
							軽自動車			
	貨物用	乗合用	乗用	特種・特殊車	小計	小型二輪車	二輪車	その他	小計	
平成１５年度	5,567	221	38,518	1,443	45,749	1,083	1,099	26,042	28,224	73,973
平成１６年度	5,561	221	38,719	1,423	45,924	1,097	1,151	26,617	28,865	74,789
平成１７年度	5,545	236	39,283	1,385	46,449	1,137	1,168	27,394	29,699	76,148
平成１８年度	5,556	234	39,492	1,388	46,670	1,160	1,206	28,248	30,614	77,284
平成１９年度	5,512	237	39,429	1,381	46,559	1,158	1,202	29,391	31,751	78,310
平成２０年度	5,395	240	38,881	1,306	45,822	1,145	1,214	30,248	32,607	78,429
平成２１年度	4,801	231	38,423	1,292	44,747	1,183	1,216	31,129	33,528	78,275

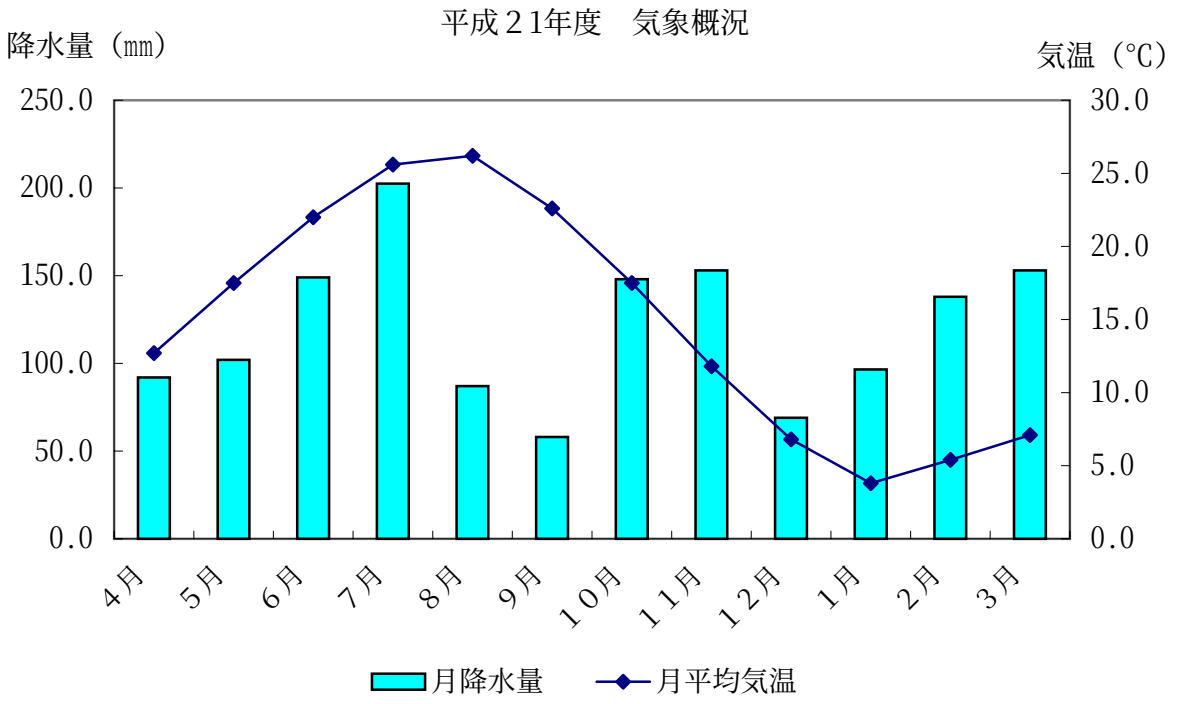
（資料：県警察本部交通部交通企画課「滋賀の交通」　各年度３月末日現在）

土地利用区分面積の割合の推移



（６）気象


平均気温・降水量の経年変化
降水量（mm）
気温（℃）
2500.0
2000.0
1500.0
1000.0
500.0
0.0
16.0
15.5
15.0
14.5
14.0
13.5
13.0
12.5
H10
H11
H12
H13
H14
H15
H16
H17
H18
H19
H20
H21
年降水量
平均気温


平成２1年度　気象概況
降水量（mm）
気温（℃）
250.0
200.0
150.0
100.0
50.0
0.0
30.0
25.0
20.0
15.0
10.0
5.0
0.0
4月
5月
6月
7月
8月
9月
１0月
１1月
１2月
1月
2月
3月
月降水量
月平均気温

2　彦根市の環境行政

（1）行政組織（H22.4 現在）

彦根市

- 市民環境部
  - 生活環境課
    - 生活・廃棄物対策係
    - 環境保全係
    - 公害試験室
  - 清掃センター
    - 管　理　係
    - 業　務　係
    - 施　設　係
  - 市民課
  - 保険年金課
  - 市民交流課
  - 人権政策課
  - 人権・福祉交流会館
  - 東山会館

（2）審議会

彦根市では、行政施策等に関して基本的な事項を調査審議していただくため、各種の審議会を設置しています。市民環境部の環境部門で所管している審議会は次のとおりです。

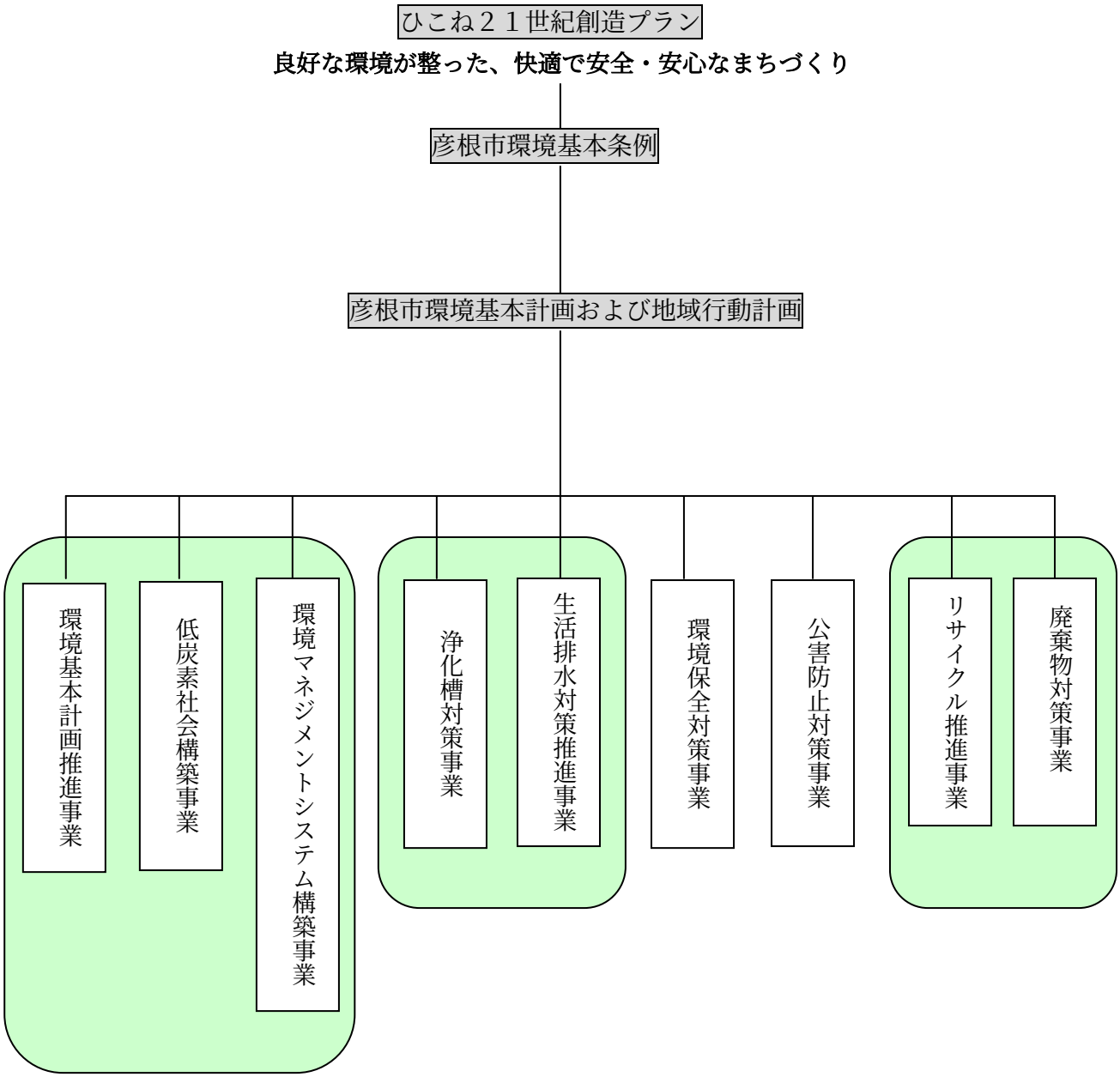
彦根市環境審議会

○根拠条例等	彦根市環境基本条例
○設 置 目 的	市の区域における良好な環境の保全と創出に関し基本的事項を調査審議すること。
○定員と構成	２０人以内（諸団体の代表者、学識経験者、関係行政機関の職員、その他市長が適当と認める者）
○任　　期	２年（再任を妨げない）

彦根市廃棄物減量等推進審議会

○根拠条例等	彦根市廃棄物減量等推進審議会条例
○設 置 目 的	一般廃棄物の減量等に関する事項を調査審議すること。
○定員と構成	２０人以内（学識経験者、事業者、廃棄物処理業者、その他市長が適当と認める者）
○任　　期	２年（再任を妨げない）

（３）環境施策(事業)の体系図



※ ―関連性の強い事業

環境基本計画推進事業

「環境基本計画および地域行動計画」を受けて、計画を完効性のあるものとしていくためのベースとなる事業を展開する。また、年次的に進捗管理を行ない、体系的・総合的に環境施策の推進を図ります。

低炭素社会構築事業

低炭素社会を実現するため、家庭部門での自然エネルギーの有効利用・省エネルギー対策の補助として「住宅用太陽光発電・高効率給湯器導入補助金」を行い、利用促進を図ります。また、小学校４年生から６年生を対象とした環境学習プログラム「キッズ ISO」を実施し、低炭素社会の実現に向けた人材の育成を行ないます。

環境マネジメントシステム構築事業

市が進める行政施策について、環境保全の観点から総合管理を行なうため、環境マネジメントシステムを構築・運用します。第三者による審査を受けることで、信頼性・透明性を確保しながら継続的な改善を目指して事業を実施します。

浄化槽対策事業

浄化槽の設置に関する調査、事前協議、維持管理の指導および浄化槽清掃業者の指導監督をすすめることで、浄化槽の適正な維持管理を図ります。さらに、生活排水による公共水域の水質保全のため、浄化槽設置補助金の制度を設け、合併処理浄化槽の設置を推進しています。

生活排水対策推進事業

市民団体による身近な河川や水路の水質調査を定期的かつ継続的に実施し、水質汚濁の現状や変化を把握するとともにイベント等での生活排水対策の啓発等を通じて、市民の生活排水対策推進計画の評価にも活かしていきます。

環境保全対策事業

市域の環境保全、市民の自然保護意識の高揚を図るため、環境保全の取組みに対する支援として自然観察会などを行なっております。また、広域的な視点からの環境保全、自然保護を推進するために環境団体等への参画を通じ、連携、協働による取組みを行ないます。

公害防止対策事業

工場・事業場に対するパトロールや指導を行ない、公害監視体制の強化、公害防止対策の推進及び危機管理意識の向上を図ります。また、市内の大小河川や水路、土壌、地下水、大気汚染状況の把握、道路交通や事業活動に伴う騒音・振動や悪臭の調査を実施し、現状の把握及び指導データを得るとともに、騒音規制法・振動規制法・悪臭防止法の的確な運用を図ります。

リサイクル推進事業

容器包装リサイクル法にかかる紙類をはじめ、廃食用油等の資源をリサイクルするよう取り組み、ごみの減量化と資源循環型社会の構築を図ります。新聞紙等の集団回収をはじめとしたリサイクル活動を推進し、集団回収を行なった団体に対して奨励金を出しています。

廃棄物対策事業

生ごみ処理対策や古紙の行政回収、不法投棄防止など、廃棄物の減量や環境保全に向けた取組みを行なっています。また、琵琶湖岸や市内河川の一斉清掃等イベントにより環境美化、ごみの減量の推進を図ります。

３　環境の現状

（１）水質

本市では、昭和４７年度から市内主要河川の水質検査を行っています。調査は原則として月１回実施し、調査地点は、調査開始以来若干の追加や廃止、変更を行っています。

平成２１年度は１２河川１５地点で調査を行いました。

また、地下水については、市内３地域で有機塩素化合物などによる汚染が判明しており、県とともに監視を続けています。

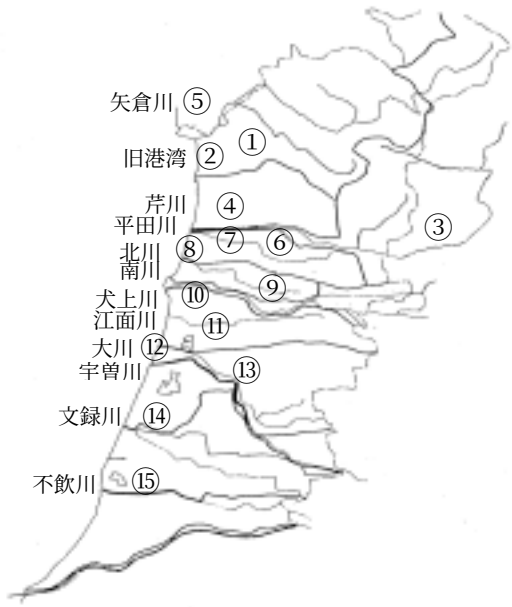
① 河川の水質

市内河川水質調査要領

調　査　地　点		１５地点（１２河川）
調　査　回　数		毎月１回、年１２回
調査項目	一　般　項　目	水温
	生活環境項目	水素イオン濃度（ｐＨ）、溶存酸素（ＤＯ）、生物化学的酸素要求量（ＢＯＤ）、化学的酸素要求量（ＣＯＤ）、浮遊物質量（ＳＳ）、銅、亜鉛、鉄、マンガン、総クロム、ふっ素、大腸菌群数、全窒素（Ｔ－Ｎ）、全りん（Ｔ－Ｐ）
	健　康　項　目	カドミウム、鉛、ひ素
	そ の 他 項 目	電気伝導度、塩化物イオン

採水地点

①	旧港湾（上流）	船町交差点付近
②	旧港湾（下流）	松原橋直下
③	芹川（上流）	名神高速道路付近
④	芹川（下流）	池州橋直下
⑤	矢倉川	河口付近
⑥	平田川	平田川橋上流
⑦	北川	北川橋直下
⑧	南川	大藪町
⑨	犬上川（中流）	犬上橋付近
⑩	犬上川（下流）	開出今橋直下
⑪	江面川	江面川橋直下
⑫	大川	休神橋直下
⑬	宇曽川	唐崎橋直下
⑭	文録川	つぶり橋直下
⑮	不飲川	普光寺町



３　環境の現状

（１）水質

本市では、昭和４７年度から市内主要河川の水質検査を行っています。調査は原則として月１回実施し、調査地点は、調査開始以来若干の追加や廃止、変更を行っています。

平成２１年度は１２河川１５地点で調査を行いました。

また、地下水については、市内３地域で有機塩素化合物などによる汚染が判明しており、県とともに監視を続けています。

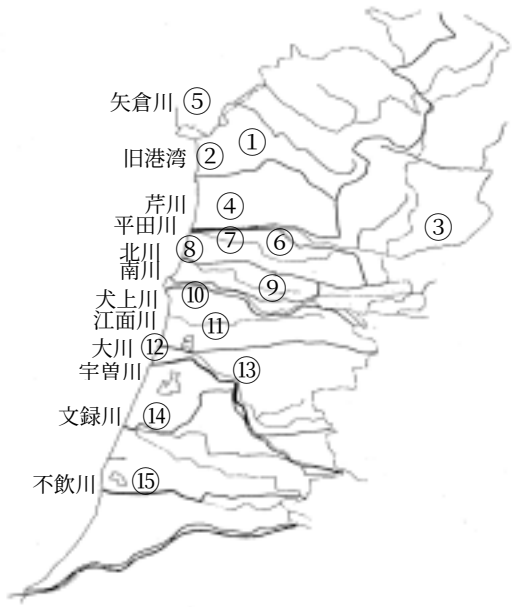
① 河川の水質

市内河川水質調査要領

調　査　地　点		１５地点（１２河川）
調　査　回　数		毎月１回、年１２回
調査項目	一　般　項　目	水温
	生活環境項目	水素イオン濃度（ｐＨ）、溶存酸素（ＤＯ）、生物化学的酸素要求量（ＢＯＤ）、化学的酸素要求量（ＣＯＤ）、浮遊物質量（ＳＳ）、銅、亜鉛、鉄、マンガン、総クロム、ふっ素、大腸菌群数、全窒素（Ｔ－Ｎ）、全りん（Ｔ－Ｐ）
	健　康　項　目	カドミウム、鉛、ひ素
	そ の 他 項 目	電気伝導度、塩化物イオン

採水地点

①	旧港湾（上流）	船町交差点付近
②	旧港湾（下流）	松原橋直下
③	芹川（上流）	名神高速道路付近
④	芹川（下流）	池州橋直下
⑤	矢倉川	河口付近
⑥	平田川	平田川橋上流
⑦	北川	北川橋直下
⑧	南川	大藪町
⑨	犬上川（中流）	犬上橋付近
⑩	犬上川（下流）	開出今橋直下
⑪	江面川	江面川橋直下
⑫	大川	休神橋直下
⑬	宇曽川	唐崎橋直下
⑭	文録川	つぶり橋直下
⑮	不飲川	普光寺町

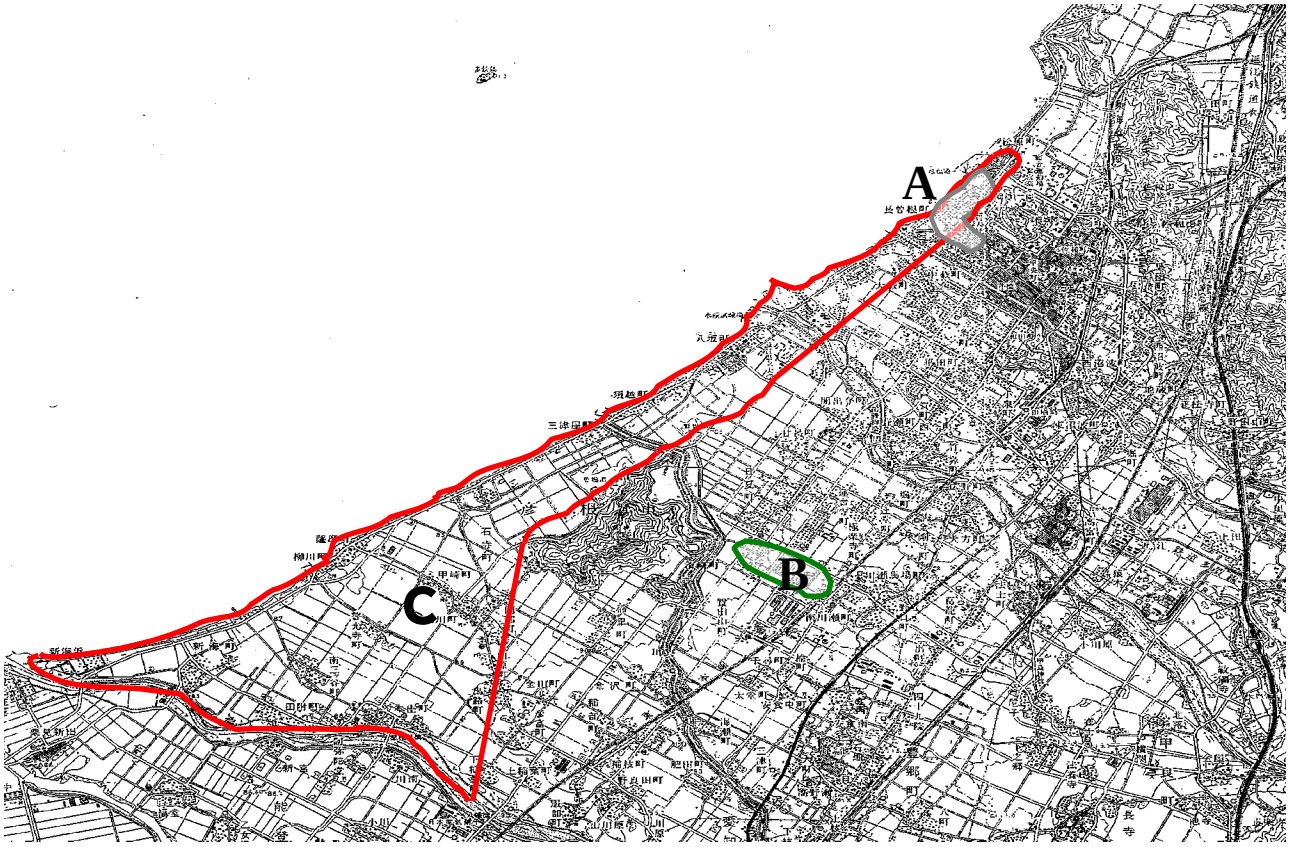


② 地下水の状況

昭和５８年に環境庁（現在環境省）が全国の地下水実態調査結果を発表し、有機塩素化合物による全国的な地下水汚染の実態が判明しました。本市においても汚染地域が判明しており、県とともに監視を続けています。

区域	調査地点数	汚染物質	検出地点数	飲用不適地点数	年間最高検出濃度（mg/ｌ）				飲用基準（mg/ｌ）
					18年度	19年度	20年度	21年度	
A 馬場城町	9	ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	4	3	0.30	0.55	1.00	0.44	0.01
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	1	1	0.07	0.10	0.11	0.14	0.04
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	1	0	<0.003	0.004	0.003	0.003	0.03
B 日夏 清崎 南川瀬	10	ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	3	1	0.03	0.03	0.02	0.02	0.01
C 湖岸	1	ひ素	1	1	0.047	0.053	0.040	0.058	0.01

地下水汚染地域図



③ 琵琶湖の水質

生活環境の保全に関する環境基準

該当水域	項目類型	利用目的の適応性	基準値					達成期間	
			ｐＨ	ＣＯＤ	ＳＳ	ＤＯ	大腸菌群数		
琵琶湖	ＡＡ	水道１級・水産１級・自然環境保全およびＡ以下の欄に掲げるもの	6.5以上8.5以下	1mg/l以下	1mg/l以下	7.5mg/l以上	50MPN/100ml以下	南湖(ハ)	北湖(イ)

注)達成期間の(イ)は直ちに達成、(ハ)は５年を超える期間で可及的速やかに達成。

全窒素･全りんの環境基準　(mg/l)

	Ｔ－Ｎ	Ｔ－Ｐ
琵琶湖(Ⅱ類型)	0.2	0.01

透明度　(　ｍ　)

	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	平　均
北湖	5.5	5.4	5.9	6.5	6.6	6.0	6.1	6.0
南湖	2.4	2.5	2.4	2.5	2.6	2.8	2.7	2.6

ＢＯＤ　(生物化学的酸素要求量)　(ｍｇ／l)

	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	平　均
北湖	0.6	0.5	0.6	<0.5	<0.5	0.5	0.5	0.5
南湖	1.0	0.9	0.9	1.0	1.1	1.1	1.0	1.0

ＣＯＤ　(化学的酸素要求量)　(ｍｇ／l)

	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	平　均
北湖	2.6	2.6	2.7	2.5	2.7	2.7	2.7	2.6
南湖	3.1	3.1	3.2	3.1	3.3	3.3	3.4	3.2

ＳＳ　(浮遊物質量)　(ｍｇ／l)

	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	平　均
北湖	1.2	1.1	1.1	<1.0	<1.0	1.0	1.1	1.1
南湖	3.7	3.4	3.4	3.2	2.8	2.6	2.9	3.1

Ｔ－Ｎ　(全窒素)　(ｍｇ／l)

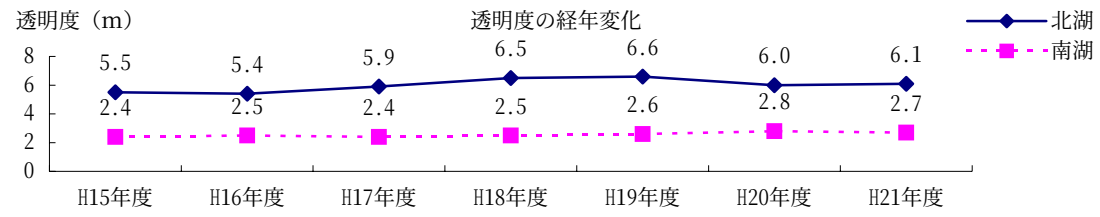
	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	平　均
北湖	0.32	0.29	0.29	0.27	0.26	0.24	0.24	0.27
南湖	0.36	0.33	0.32	0.31	0.29	0.3	0.28	0.31

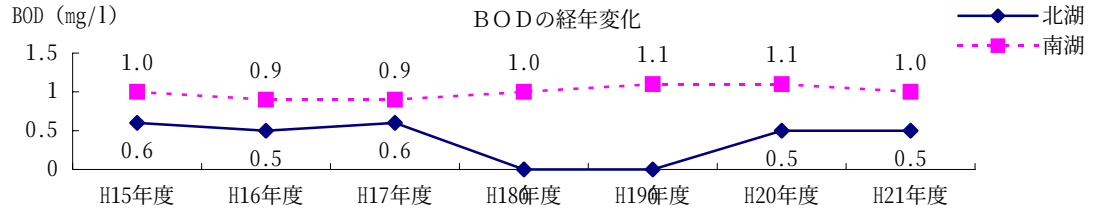
Ｔ－Ｐ　(全りん)　(ｍｇ／l)

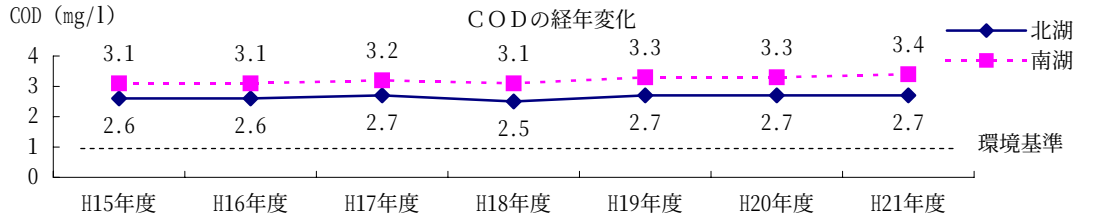
	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	平　均
北湖	0.009	0.008	0.008	0.007	0.007	0.008	0.008	0.008
南湖	0.016	0.016	0.017	0.015	0.016	0.016	0.016	0.016

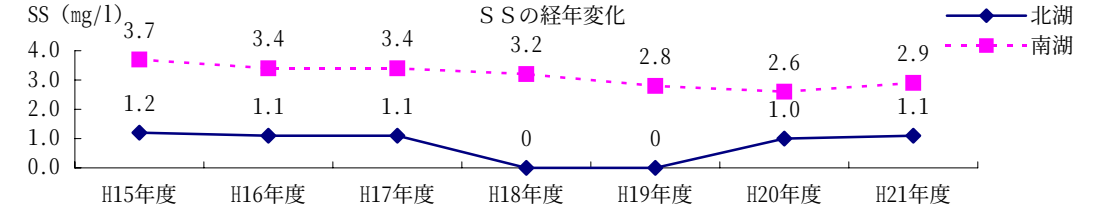
クロロフィルａ　(μｇ／l)

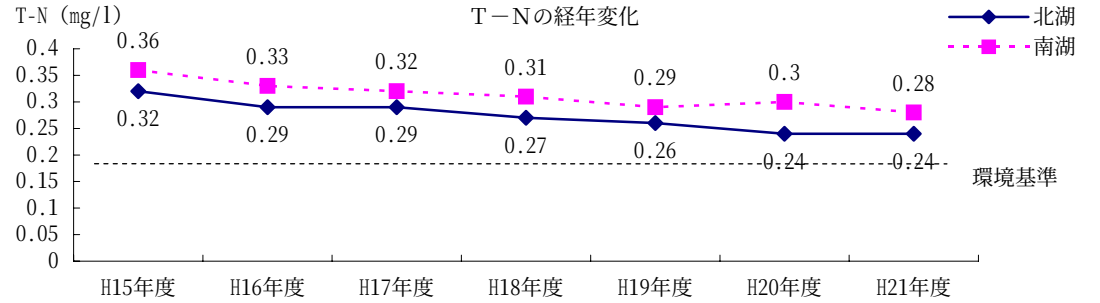
	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	平　均
北湖	3.0	3.3	4.5	2.5	3.0	3.3	3.2	3.3
南湖	5.8	5.0	5.8	4.7	5.5	6.5	5.8	5.6

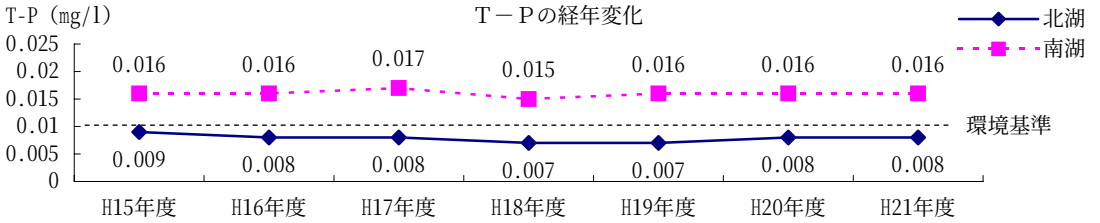

透明度（m）
透明度の経年変化
北湖
南湖
8
6
4
2
0
5.5
5.4
5.9
6.5
6.6
6.0
6.1
2.4
2.5
2.4
2.5
2.6
2.8
2.7
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度

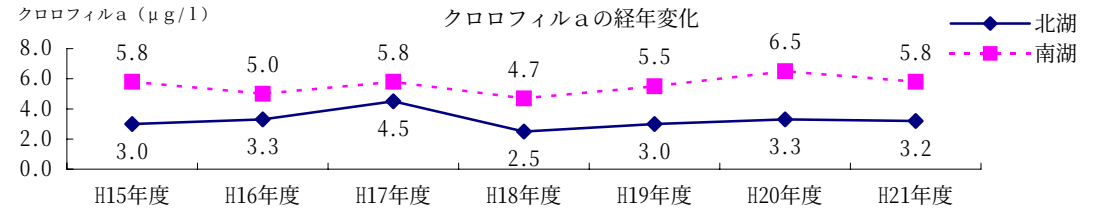

BOD（mg/l）
ＢＯＤの経年変化
北湖
南湖
1.5
1
0.5
0
1.0
0.9
0.9
1.0
1.1
1.1
1.0
0.6
0.5
0.6
0
0
0.5
0.5
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度


COD（mg/l）
ＣＯＤの経年変化
北湖
南湖
4
3
2
1
0
3.1
3.1
3.2
3.1
3.3
3.3
3.4
2.6
2.6
2.7
2.5
2.7
2.7
2.7
環境基準
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度


SS（mg/l）
ＳＳの経年変化
北湖
南湖
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
3.7
3.4
3.4
3.2
2.8
2.6
2.9
1.2
1.1
1.1
0
0
1.0
1.1
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度


T-N（mg/l）
Ｔ－Ｎの経年変化
北湖
南湖
0.4
0.35
0.3
0.25
0.2
0.15
0.1
0.05
0
0.36
0.33
0.32
0.31
0.29
0.3
0.28
0.32
0.29
0.29
0.27
0.26
0.24
0.24
環境基準
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度


T-P（mg/l）
Ｔ－Ｐの経年変化
北湖
南湖
0.025
0.02
0.015
0.01
0.005
0
0.016
0.016
0.017
0.015
0.016
0.016
0.016
環境基準
0.009
0.008
0.008
0.007
0.007
0.008
0.008
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度


クロロフィルａ（μg/l）
クロロフィルａの経年変化
北湖
南湖
8.0
6.0
4.0
2.0
0.0
5.8
5.0
5.8
4.7
5.5
6.5
5.8
3.0
3.3
4.5
2.5
3.0
3.3
3.2
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度

④ 十王村の水

西今町にある十王村の水は、昭和60年に環境庁（現環境省）が選定した名水百選のひとつです。正方形の一角を切り取った変形五角形で、石の柵に囲まれています。また、水源地の中央には六角形のお堂があり、お地蔵様が祭られています。

本市では毎年水質の検査を実施しており、平成21年度も検査50項目すべてにおいて基準値を満たしていました。

平成２１年度十王村の水の水質

(mg／l)

検査項目	検査結果	飲用基準
一般細菌	0/ml	≦100/ml
大腸菌群	不検出	不検出
カドミウム及びその化合物	<0.001	≦0.01
水銀及びその化合物	<0.00005	≦0.0005
セレン及びその化合物	<0.001	≦0.01
鉛及びその化合物	<0.001	≦0.01
ひ素及びその化合物	<0.001	≦0.01
六価クロム化合物	<0.005	≦0.05
シアン化物イオン及び塩化シアン	<0.001	≦0.01
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	0.7	≦10
ふっ素及びその化合物	<0.08	≦0.8
ホウ素及びその化合物	<0.1	≦1.0
四塩化炭素	<0.0002	≦0.002
1,4-ジオキサン	<0.005	≦0.05
シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	≦0.04
ジクロロメタン	<0.002	≦0.02
テトラクロロエチレン	<0.001	≦0.01
トリクロロエチレン	<0.003	≦0.03
塩素酸	<0.06	≦0.6
ベンゼン	<0.001	≦0.01
クロロ酢酸	<0.002	≦0.02
クロロホルム	<0.001	≦0.06
ジクロロ酢酸	<0.004	≦0.04
ジブロモクロロメタン	<0.001	≦0.1
臭素酸	<0.001	≦0.01
総トリハロメタン	<0.001	≦0.1
トリクロロ酢酸	<0.02	≦0.2
ブロモジクロロメタン	<0.001	≦0.03
ブロモホルム	<0.001	≦0.09
ホルムアルデヒド	<0.008	≦0.08
亜鉛及びその化合物	<0.05	≦1.0
アルミニウム及びその化合物	<0.02	≦0.2
鉄及びその化合物	<0.03	≦0.3
銅及びその化合物	<0.05	≦1.0
ナトリウム及びその化合物	7.8	≦200
マンガン及びその化合物	<0.005	≦0.05
塩化物イオン	8.6	≦200
ｶﾙｼｳﾑ､ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ等(硬度)	71	≦300
蒸発残留物	110	≦500
陰イオン界面活性剤	<0.02	≦0.2
ジェオスミン	<0.000001	≦0.00001
2-メチルイソボルネオール	<0.000001	≦0.00001
非イオン界面活性剤	<0.005	≦0.02
フェノール類	<0.0005	≦0.005
有機物(全有機炭素（TOC）の量)	<0.3	≦5
ｐＨ値	7.2	5.8～8.6
臭気	異常なし	異常なし
色度	0.5度未満	≦5度
濁度	0.1度未満	≦2度
腸管出血性大腸菌Ｏ１５７	不検出	------

（２）土壌

本市では、毎年任意の４地点で採取した土壌について、カドミウム、鉛、クロム、ひ素、水銀、銅の６項目の重金属分析を行っています。平成２１年度は下記の４地点において調査を行い、いずれの項目も環境基準を満たしていました。

平成２１年度　土壌調査（溶出試験）　（ｍｇ／ｌ）

	カドミウム	鉛	クロム（Ｔ－Ｃｒ）	ひ素	水銀	銅
１．鳥居本町	<0.001	<0.005	<0.01	<0.005	<0.0005	<0.1
２．開出今町	<0.001	<0.005	<0.01	<0.005	<0.0005	<0.1
３．三津屋町	<0.001	<0.005	<0.01	<0.005	<0.0005	<0.1
４．服部町	<0.001	<0.005	<0.01	0.006	<0.0005	<0.1
環　境　基　準	≦0.01	≦0.01	≦0.05(Cr^{6+})	≦0.01	≦0.0005	-------

土壌調査地点

（３）大気

大気汚染は地域を越える広域的な問題であり、事業活動において燃焼時に発生する硫黄酸化物・すすなどの「ばい煙」や、物の破砕等による「粉じん」のほか、自動車の排ガスに含まれる窒素酸化物などにより引き起こされます。それらの汚染原因物質に対して、下の表のとおり法律で環境基準が定められており、本市では、県とともに監視を行っています。

大気汚染に係る環境基準

物　　質	環　境　上　の　条　件
二酸化いおう	１時間の１日平均値が０．０４ppm以下であり、かつ、１時間値が０．１ppm以下であること。
一酸化炭素	１時間値の１日平均値が１０ppm以下であり、かつ、１時間値の８時間平均値が２０ppm以下であること。
浮遊粒子状物質[1)]	１時間値の１日平均値が０．１０mg/m^{3}以下であり、かつ、１時間値が０．２０mg/m^{3}以下であること。
光化学オキシダント[2)]	１時間値が０．０６ppm以下であること。
二酸化窒素	１時間値の１日平均値が０．０４ppmから０．０６ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。
ベンゼン	１年平均値が０．００３mg/m^{3}以下であること。
トリクロロエチレン	１年平均値が０．２mg/m^{3}以下であること。
テトラクロロエチレン	１年平均値が０．２mg/m^{3}以下であること。

１）浮遊粒子状物質とは、大気中に浮遊する粒子状物質であって、その粒径が１０μm以下のものをいう。
２）光化学オキシダントとは、オゾン、パーオキシアセチルナイトレートその他の光化学反応により生成される酸化性物質（中性ヨウ化カリウム溶液からヨウ素を遊離するものに限り、二酸化窒素を除く。）をいう。

① 大気質の現況

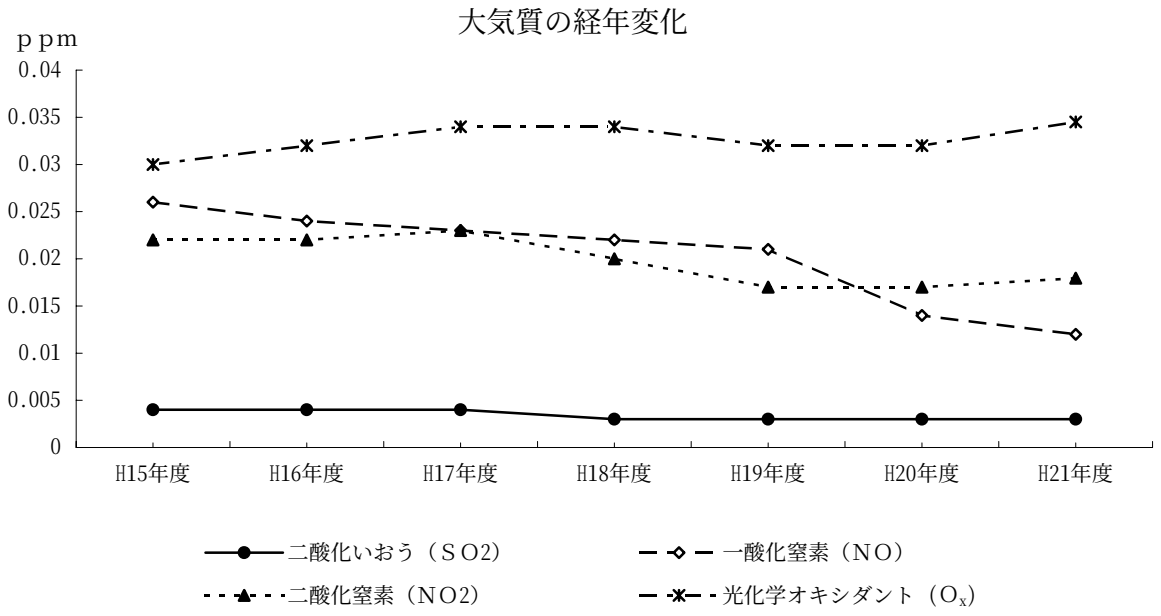
東中学校に県の大気自動測定局が設置されており、大気環境の常時測定が行われています。いずれの項目にも大きな変化はなく、環境基準を満たしています。

大気質

(ppm)

	年　平　均　値						
	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
二酸化いおう（SO_2）	0.004	0.004	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003
一酸化窒素（NO）	0.026	0.024	0.023	0.022	0.021	0.014	0.012
二酸化窒素（NO_2）	0.022	0.022	0.023	0.020	0.017	0.017	0.018
光化学オキシダント（O_X）[1]	0.030	0.032	0.034	0.034	0.032	0.032	0.035

１）光化学オキシダント（O_X）は、昼間の１時間値の年平均値である。



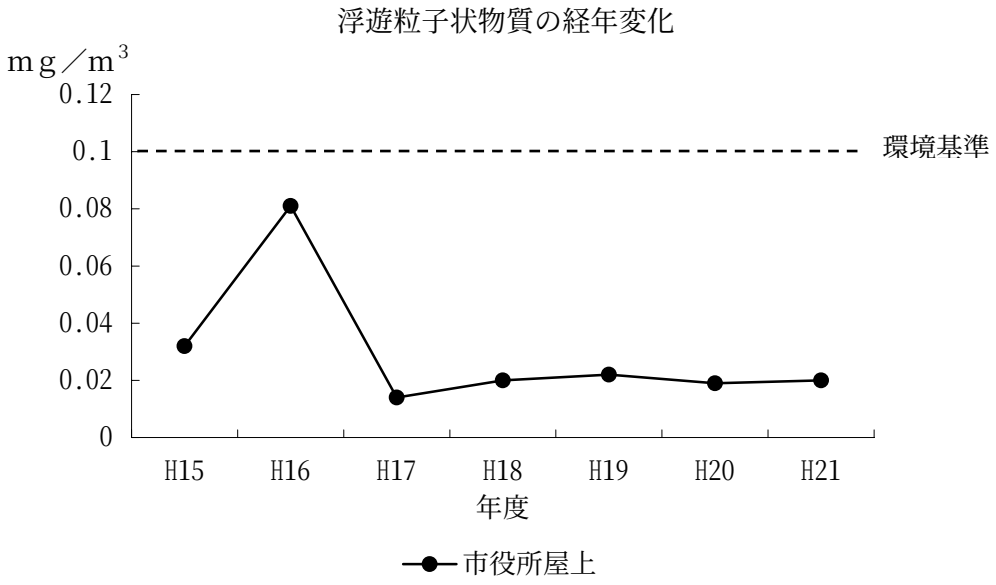
② 浮遊粒子状物質

本市では、毎月１回、市役所庁舎屋上において浮遊粒子状物質の測定を行っています。いずれの年度においても環境基準を満たしています。

浮遊粒子状物質

（mg／m^3）

年　　度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
市役所屋上	0.032	0.081	0.014	0.020	0.022	0.019	0.020



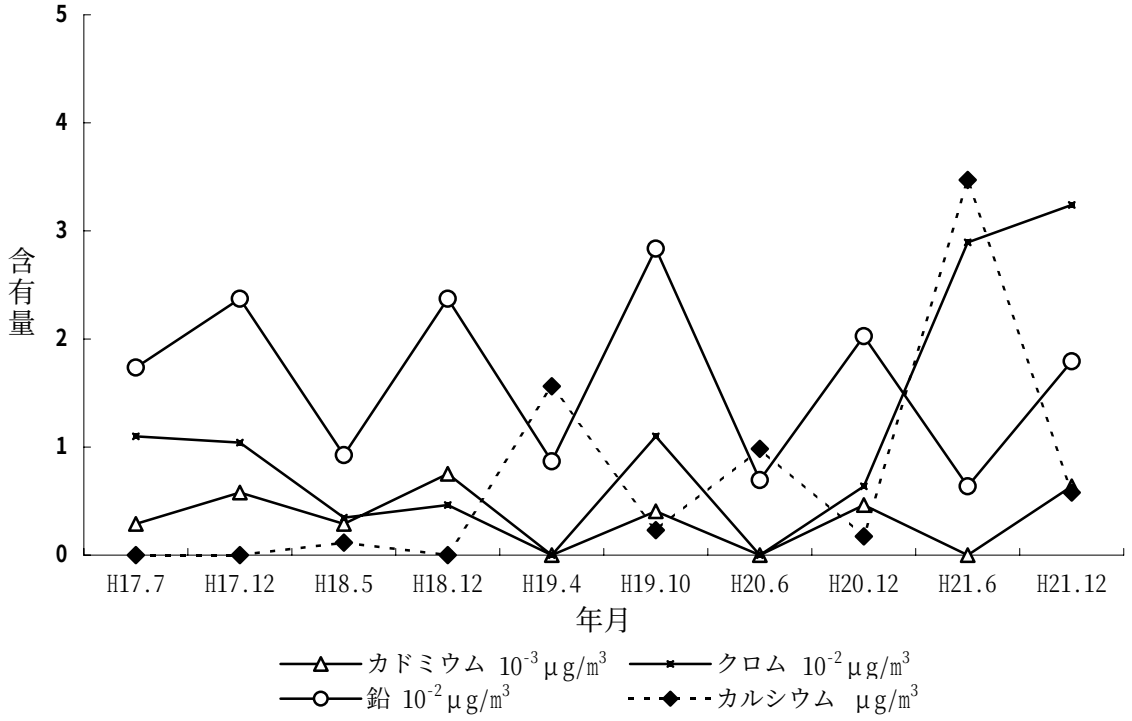
浮遊粒子状物質中重金属分析

浮遊粒子状物質中の重金属分析を、年２回、カドミウム、クロム、鉛、カルシウムの４項目について実施しており、その結果は以下のとおりです。

浮遊粒子状物質中重金属

		H17.7	H17.12	H18.5	H18.12	H19.4	H19.10	H20.6	H20.12	H21.6	H21.12
カドミウム	10^{-3} μg/m^3	0.3	0.6	0.3	0.8	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0	0.6
クロム	10^{-2} μg/m^3	1.1	1.0	0.3	0.5	0.0	1.1	0.0	0.6	2.9	3.2
鉛	10^{-2} μg/m^3	1.7	2.4	0.9	2.4	0.9	2.8	0.7	2.0	0.6	1.8
カルシウム	μg/m^3	0.0	0.0	0.1	0.0	1.6	0.2	1.0	0.2	3.5	0.6

浮遊粒子状物質中重金属の経年変化



③ 光化学スモッグ

光化学スモッグは、夏季、陽射しが強く風の弱い日に発生しやすく、その影響は、人体に「目がチカチカする」、「のどが痛くなる」などといった症状を与えるほか、植物にもある種の症状を引き起こすことが知られています。

注意報等の発令基準

区　　分	発　　令　　基　　準
光化学スモッグ注意報	基準測定点における光化学オキシダント濃度の1時間値が0.12ｐｐｍ以上になり、気象条件からみて、その濃度が継続すると認められる時
光化学スモッグ警報	基準測定点における光化学オキシダント濃度の1時間値が0.24ｐｐｍ以上になり、気象条件からみて、その濃度が継続すると認められる時
光化学スモッグ重大緊急警報	基準測定点における光化学オキシダント濃度の1時間値が0.40ｐｐｍ以上になり、気象条件からみて、その濃度が継続すると認められる時

平成２１年度、彦根市では光化学スモッグ注意報は発令されませんでした。

（４）騒音・振動

音には、私たちの生活・活動にともなって発生するものもあり、工場で生産・加工を行う際に発生する機械音や、工事現場の解体・補修作業にともなって発生する音、自動車・新幹線などの交通機関の走行音、飲食店やカラオケ店よりもれてくる音、隣の家から聞こえる楽器音やペットの鳴き声等様々です。

音の感受性、つまり音を騒がしいと感じるか感じないかには個人差があり、騒がしいと感じた場合に、音は「騒音」として苦情につながることもあります。また、音を発生する側と受ける側との関係によっても、同じ大きさの音が騒音として認識されるか否かが左右されることもあり、こういった理由から、騒音は一概に定義することのできない難しい問題のひとつです。更に近年では、低周波音が新たな問題となっていますが、人の耳には聞き取りにくい低い周波数の空気振動であることや、一般の音に比べ塀等による減衰および空気や地表面による吸収等も小さく、一般の騒音に比べ影響範囲が大きくなることもあり発生源の特定が難しいほか、人体への影響等もはっきりしていないのが現状です。

著しい騒音・振動を発生する施設を有する工場・事業場や特定建設作業については、騒音規制法・振動規制法によって「規制基準」が定められているほか、騒音については交通機関や地域においても、維持されることが望ましい「環境基準」が法で定められています。本市ではそれらの基準に基づいて、騒音・振動からの生活環境の保全にあたっています。

環境騒音

本市では、市の全域をメッシュで区分し、毎年度環境騒音の調査を行っています。平成２１年度は下記の１６地点で調査を実施し、任意の一日について、昼間、夜間の２時間帯ごとに集計を行いました。

平成２１年度環境騒音調査結果

(dB)

地点番号	測　定　地　点	用　途　地　域	地域類型	測定値	
				昼	夜
1	物生山橋	市街化調整区域	B	50	48
2	馬場一丁目	第1種住居地域	A	52	50
3	片山公園	準工業地域	B	56	46
4	旭森地区公民館	第1種住居地域	A	51	46
5	花園地蔵遊園地	第1種中高層住居専用地域	A	50	46
6	開出今団地	第1種中高層住居専用地域	A	44	43
7	蔵の町団地	市街化調整区域	B	41	36
8	白山神社	第1種住居地域	A	49	43
9	甘呂公民館	市街化調整区域	B	47	37
10	清崎町	市街化調整区域	B	45	40
11	堀町	市街化調整区域	B	51	50
12	八幡神社	市街化調整区域	B	49	43
13	東福寺	市街化調整区域	B	42	34
14	稲葉神社	市街化調整区域	B	48	43
15	久留巳神社	市街化調整区域	B	46	41
16	新海浜公園	第1種中低層住居専用地域	A	50	48

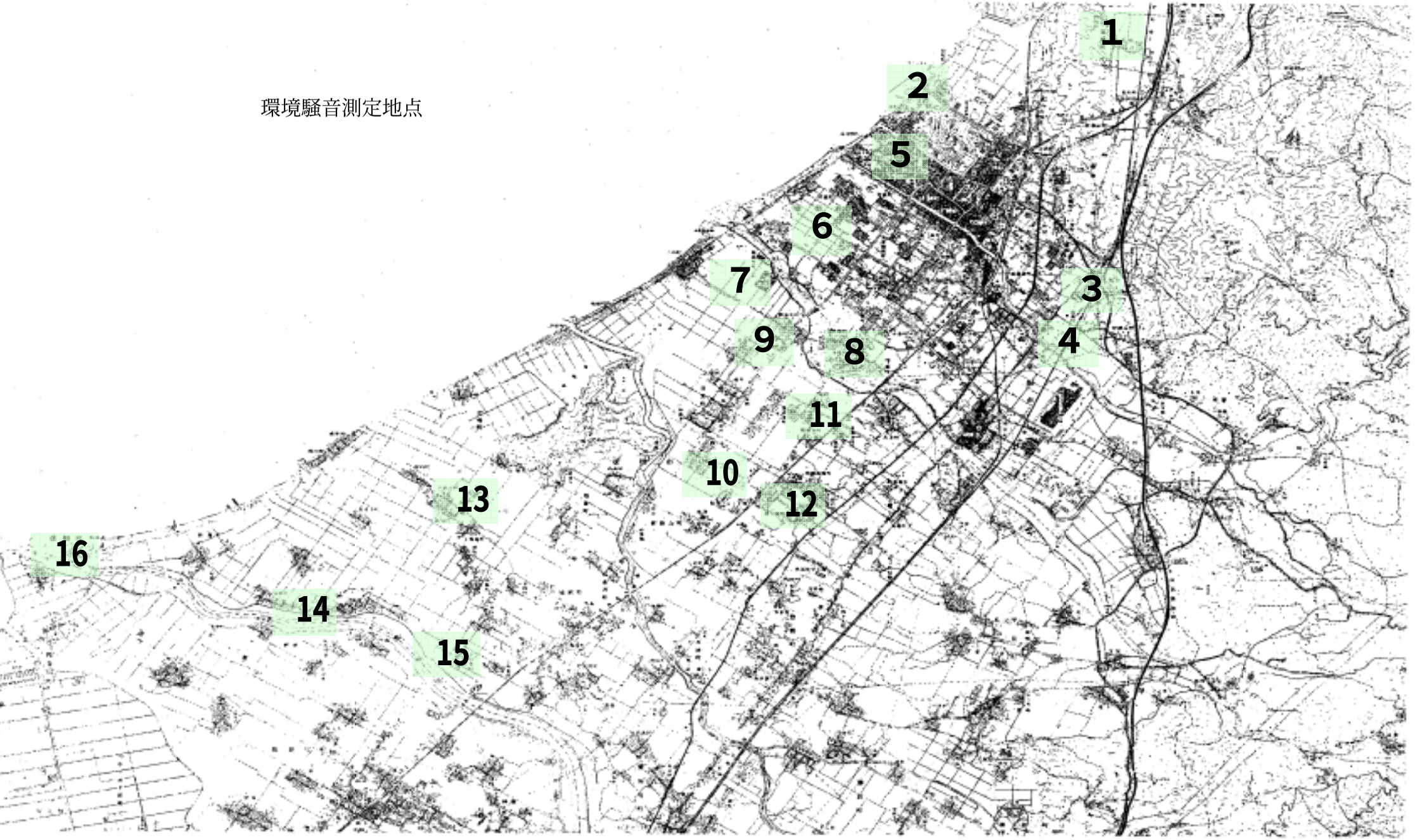
＊　　は環境基準値超過

騒音に係る環境基準

(dB)

地域類型	区　分	昼間(6:00～22:00)	夜間(22:00～6:00)
A	一般地域	55	45
	2車線以上の道路に面する地域	60	55
B	一般地域	55	45
	2車線以上の道路に面する地域	65	60
C	一般地域	60	50
	車線を有する道路に面する地域	65	60

環境騒音測定地点



騒音にかかる規制基準

I）特定工場において発生する騒音の規制基準　(dB)

	朝 午前６時～ 午前８時	昼　間 午前８時～ 午後６時	夕 午後６時～ 午後１０時	夜　間 午後１０時～ 翌日の午前６時
第１種区域	45	50	45	40
第２種区域	50	55	50	45
第３種区域	60	65	65	55
第４種区域	65	70	70	60

1）第１種区域　良好な住居の環境を保全するため、特に静穏の保持を必要とする区域
　第２種区域　住居の用に供されているため、静穏の保持を必要とする区域
　第３種区域　住居の用にあわせて商業、工業等の用に供されている区域であって、その区域住民の生活環境を保全するため、騒音の発生を防止する必要がある区域
　第４種区域　主として工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を悪化させないため、著しい騒音の発生を防止する必要がある区域

2）第２種区域、第３種区域、第４種区域内に所在する学校教育法第１条に規定する学校、児童福祉法第７条に規定する保育所、医療法第１条第１項に規定する病院および第２項に規定する診療所のうち患者の収容施設を有するもの、図書館法第２条第１項に規定する図書館、ならびに老人福祉法第１４条第１項第２号に規定する特別養護老人ホームの敷地の周囲おおむね５０ｍの区域内における当該基準は、本表の規定にかかわらず、本表の値からそれぞれ５dBを減じた値とする。

騒音規制区域区分と騒音環境基準の地域類型あてはめとの関係

地域	区域区分	騒音環境基準の地域類型
住居系地域	第１種区域	A
	第２種区域	B
商業系　・ 工業系地域	第３種区域 第４種区域	C

i）Ａ類型：第１種低層住居専用地域、第２種低層住宅専用地域、第１種中高層住居専用地域
　　第２種中高層住居専用地域
　Ｂ類型：第１種住居地域、第２種住居地域、準住居地域
　Ｃ類型：近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域

II）特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準

規制種別＼特定建設作業	区域	くい打機等を用いる作業	びょう打機等を用いる作業	さく岩機を用いる作業	空気圧縮機を用いる作業	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾟﾗﾝﾄ等を用いる作業	ﾊﾞｯｸﾎｳ、ﾄﾗｸﾀｰｼｮﾍﾞﾙ、ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞｰを用いる作業
基　準　値	①②	８５　dB					
作業時間	①	午後７時～午前７時の時間内でないこと					
	②	午後10時～午前６時の時間内でないこと					
1日当たりの作業時間※	①	１０時間／日を超えないこと					
	②	１４時間／日を超えないこと					
作業期間	①②	連続６日を超えないこと					
作　業　日	①②	日曜日その他の休日ではないこと					

ｱ）基準値は特定建設作業の場所の敷地境界線での値
ｲ）基準値を越えている場合、騒音の防止の方法のみならず、１日の作業時間を※欄に定める時間未満４時間以上の間において短縮することを勧告または命令できる。
ｳ）上表の地域の区分①、②は以下のとおりである。

①	１号区域	特定工場等の騒音に係る第１種、第２種、第３種区域の全域および第４種区域のうち学校、保育所、病院、診療所、図書館、特別老人ホームの敷地周辺８０ｍの区域
②	２号区域	特定工場の騒音に係る指定区域のうち上記を除く区域

振動にかかる規制基準

I）特定工場において発生する振動の規制基準　　(dB)

区域＼時間		昼間	夜間
		午前８時～午後７時	午後７時～午前８時
第１種区域		60	55
第２種区域	Ⅰ	65	60
	Ⅱ	70	65

1）第１種区域　：良好な住居の環境を保全するため、特に静穏の保持を必要とする区域及び住民の用に供されているため、静穏の保持を必要とする区域
　第２種区域Ⅰ：住民の用に併せて商業、工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を保全するため、振動の発生を防止する必要がある地域
　第２種区域Ⅱ：主として工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を悪化させないため、著しい振動の発生を防止する区域
2）第２種区域にあって、学校、保育所、病院、図書館、特別養護老人ホームの敷地の周囲５０ｍの区域内における当該基準は、本表の規定にかかわらず、本表の値から５dB減じた値とする。

II）特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準

規制種別＼特定建設作業	区域	くい打機等を用いる作業	鋼球を用いて破壊する作業	舗装版破砕機を用いる作業	ﾌﾞﾚｰｶｰ
基　準　値	①②	７５　dB			
作業時間	①	午後７時～午前７時の時間内でないこと			
	②	午後10時～午前６時の時間内でないこと			
１日当たりの作業時間※	①	１０時間／日を超えないこと			
	②	１４時間／日を超えないこと			
作業期間	①②	連続６日を超えないこと			
作　業　日	①②	日曜日その他の休日ではないこと			

ｱ）基準値は特定建設作業の場所の敷地境界線での値。
ｲ）基準値を越えている場合、振動の防止の方法のみならず、１日の作業時間を※欄に定める時間未満４時間以上の間において短縮することを勧告または命令できる。
ｳ）上表の区域の区分は以下のとおりである。

①	１号区域	特定工場の振動に係る第１種、第２種Ⅰ区域の全域および第２種Ⅱ区域のうち学校、保育所、病院、診療所、図書館、特別老人ホームの敷地周辺８０ｍの区域
②	２号区域	特定工場の振動に係る指定区域のうち上記を除く区域

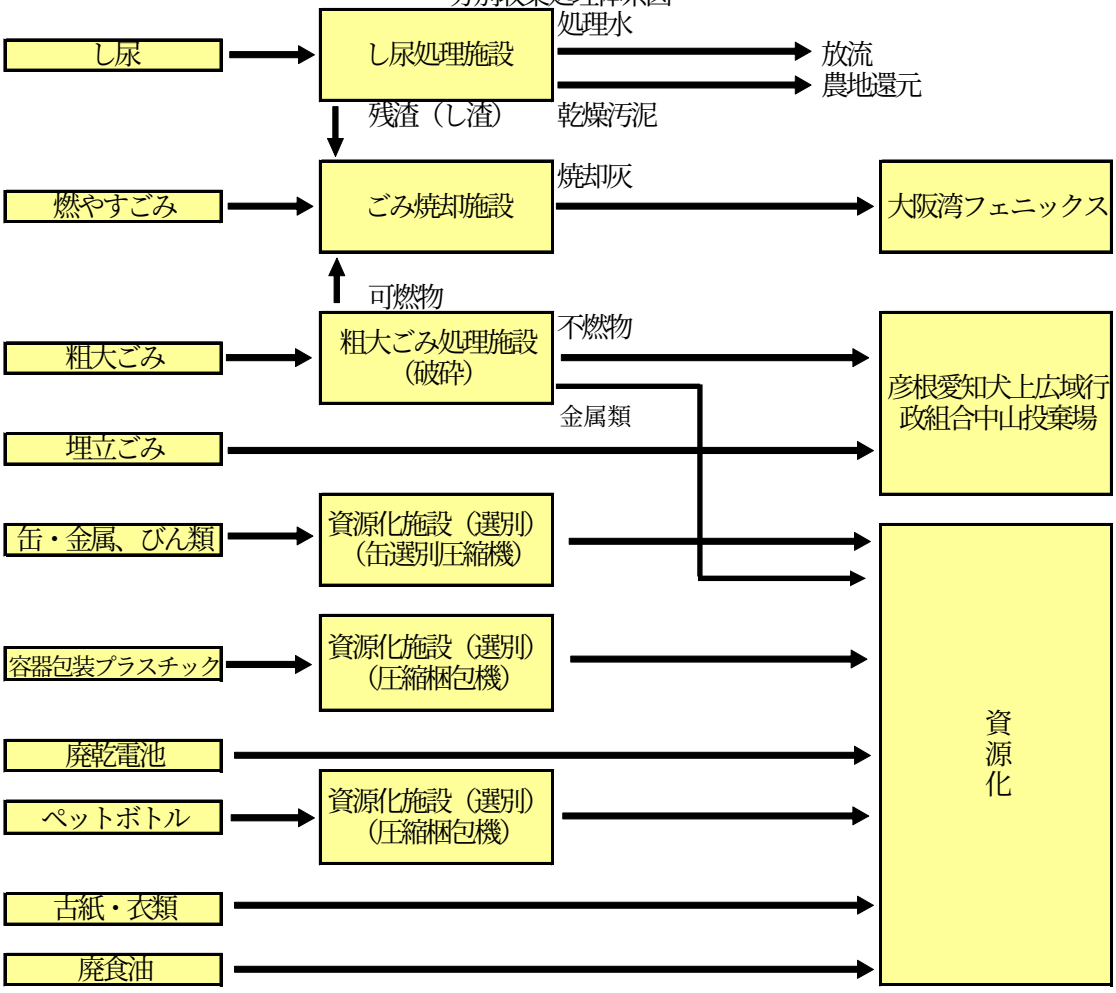
（５）廃棄物

一般廃棄物を大きく分類するとごみとし尿（浄化槽汚泥を含む）に分けられます。本市では清掃センターと彦根愛知犬上広域行政組合中山投棄場においてこれらの廃棄物の処理を行っています。また、ごみは「資源・燃やすごみ・粗大ごみ・埋立ごみ」に大別されています。廃棄物であっても、それが資源として活用できるものについては積極的に活用する必要があります。本市ではごみの資源化を進めており、粗大ごみ・埋立ごみ以外の燃やすことのできないごみを資源として扱い、処理しています。

○彦根市のごみの分別

彦根市では、平成１５年１０月１日からプラスチックごみについて資源化を開始して、よりいっそうの廃棄物リサイクルに取り組み始めました。本市では「びん類」「缶・金属類」「ペットボトル」「乾電池類」「容器包装プラスチック」の５品目について分別収集を行い、再資源化を進めています。また、新聞・雑誌などの古紙については、地域の団体等によって集団回収が行われ、これに対し、市はリサイクル奨励金を交付するなど、リサイクルに対する意識の高揚を図るとともに、平成２１年度からは行政回収をはじめています（一部地域を除く）。廃食油に関しては、平成１９年９月から市役所や支所などに回収ボックスを設置し、市民の皆様に自由に持ち込んでいただく方法で回収を行っています。また、回収した廃食油を精製したＢＤＦ（バイオディーゼル燃料）は、ごみ収集車や清掃センター場内の重機の燃料として活用しています。平成２１年４月からは、「燃やせるごみ」が「燃やすごみ」、「プラスチックごみ」が「資源－容器包装プラスチック」、「陶器類・その他ごみ」が「埋立ごみ」と市民の方によりわかりやすい名称へと変更しています。

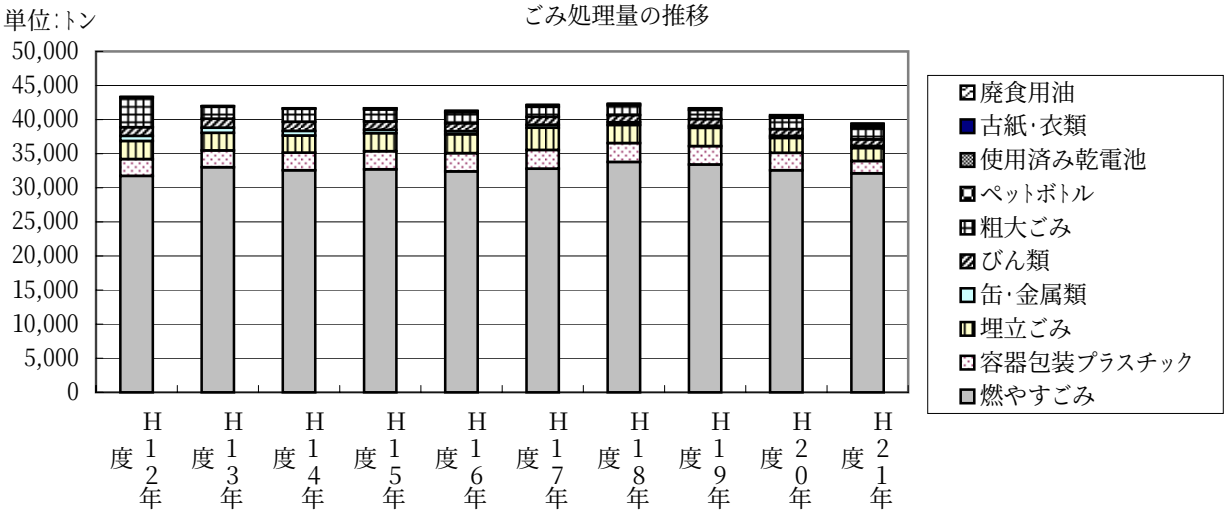
分別収集処理体系図



①ごみ処理量

単位:トン

	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
燃やすごみ	31,735	32,997	32,561	32,711	32,397	32,804	33,781	33,415	32,558	32,117
容器包装プラスチック	2,476	2,477	2,573	2,632	2,672	2,747	2,766	2,695	2,568	1,798
埋立ごみ	2,651	2,568	2,514	2,665	2,767	3,257	2,652	2,664	2,170	1,901
缶･金属類	735	754	686	495	441	427	401	318	306	314
びん類	1,270	1,323	1,329	1,224	1,178	1,174	1,059	987	988	960
粗大ごみ	4,370	1,778	1,902	1,757	1,593	1,503	1,420	1,329	1,659	1,634
ペットボトル	72	77	86	145	217	231	217	234	238	254
使用済み乾電池	29	21	24	29	27	24	23	28	27	27
古紙･衣類	0	0	0	0	0	0	0	0	142	377
廃食用油	0	0	0	0	0	0	0	2	7	20
排出量合計	43,338	41,995	41,675	41,658	41,292	42,167	42,319	41,672	40,663	39,402

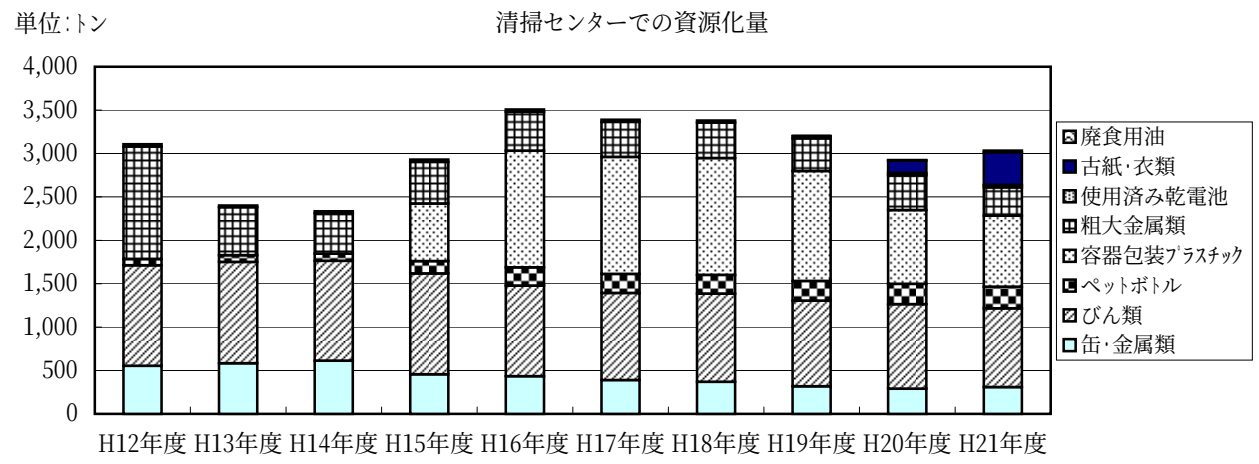


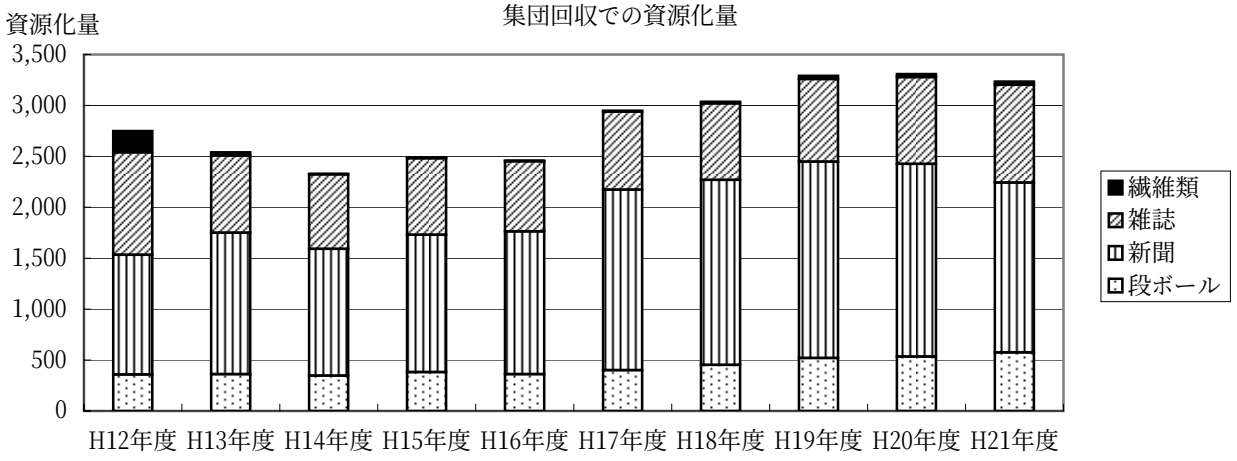
②資源化量および資源化率

資源化量

単位:トン

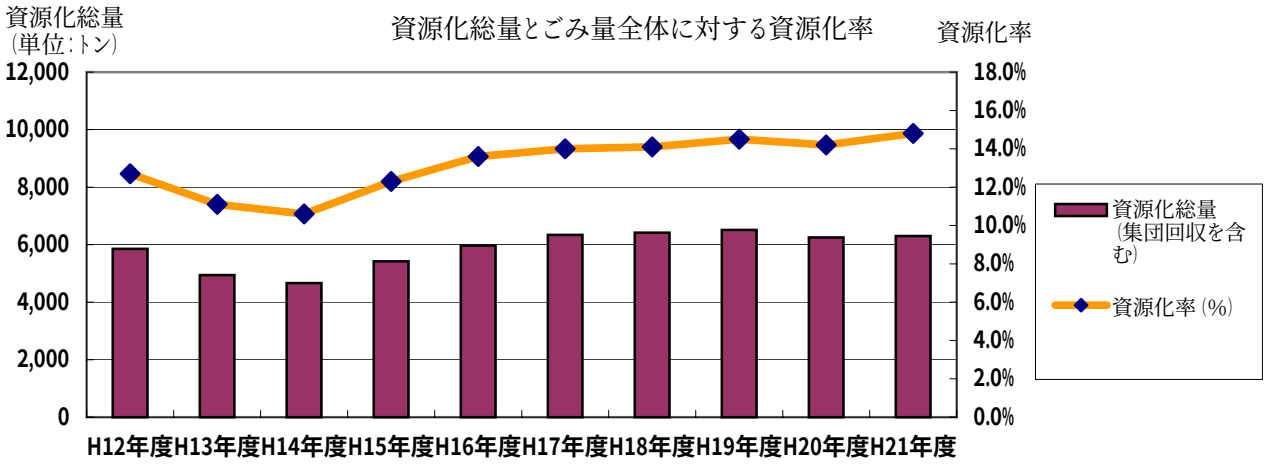
		H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
清掃センター	缶･金属類	553	583	613	456	434	390	368	317	289	308
	びん類	1,158	1,167	1,150	1,162	1,043	1,002	1,017	987	974	907
	ペットボトル	72	77	83	141	211	220	215	226	235	250
	容器包装ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	0	0	0	664	1,344	1,347	1,347	1,268	850	818
	粗大金属類	1,296	553	465	479	448	406	410	375	400	327
	使用済み乾電池	29	21	24	29	27	24	23	28	27	27
	古紙･衣類	0	0	0	0	0	0	0	0	142	377
	廃食用油	0	0	0	0	0	0	0	2	7	20
	硬質プラスチック	0	0	0	0	0	0	0	0	12	21
	小　計	3,108	2,401	2,335	2,931	3,507	3,389	3,380	3,203	2,936	3,055
集団回収	段ボール	358	362	348	382	361	400	453	520	534	575
	新聞	1,176	1,389	1,244	1,349	1,402	1,774	1,817	1,928	1,892	1,667
	雑誌	1,005	757	732	750	689	765	751	812	853	961
	繊維類	210	31	4	7	6	10	16	31	30	32
	牛乳ﾊﾟｯｸ･金属類	0	0	0	0	0	0	0	19	8	9
	小　計	2,749	2,539	2,328	2,488	2,458	2,949	3,037	3,310	3,317	3,244
資源化量合計		5,857	4,940	4,663	5,419	5,965	6,338	6,417	6,513	6,253	6,299





資源化率

	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
ごみ発生量 (集団回収を含む)	46,087	44,534	44,003	44,146	43,750	45,116	45,356	44,982	43,980	42,646
資源化総量 (集団回収を含む)	5,857	4,940	4,663	5,419	5,965	6,338	6,417	6,513	6,253	6,299
資源化率 (%)	12.7%	11.1%	10.6%	12.3%	13.6%	14.0%	14.1%	14.5%	14.2%	14.8%



④ ポイ捨て禁止条例

彦根市では、ごみの散乱および犬のふん害から市民の快適な生活を守り、良好な環境を保全することを目的として、平成１４年１０月１日より「彦根市ごみの散乱およびふん害のない美しいまちづくり条例」を施行しています。

主な内容

屋外に出たごみを持ち帰って、適正に処分しなければなりません。

犬を飼う人は、ふん害を防止し、生活環境が損なわれないように努めなければなりません。また、犬を連れて歩く時は、ふんを回収する用具を携帯し、犬がふんをしたときは、回収しなければなりません。

自動販売機設置者は、自動販売機に回収容器を設置し、適正に管理するとともにその周辺を清掃しなければなりません。

事業活動により生じたごみは事業者が清掃をしなければなりません。

外で喫煙する時は、吸殻入れのある場所で喫煙するか、携帯用吸殻入れを持ち、たばこの吸殻の散乱防止に努めなければなりません。

イベントを行う人は、ごみの発生を抑制する企画に努めなければなりません。また、開催場所および周辺の清掃をしなければなりません。

宣伝物、印刷物を配布した人は、配布した場所およびその周辺に散乱している配布物を回収しなければなりません。

ごみのポイ捨てや犬のふんを放置すると

まず　①必要な措置をするよう**指導**します。
次に指導に従わなければ　②期限を定めた**勧告**を行います。
その勧告に従わなければ　③その勧告に従うよう**命令**します。
その命令に従わなければ　④**２万円以下の罰金**に処します。

⑤　路上喫煙防止条例

彦根市では、路上での喫煙を防止することにより、市民の身体への被害を防ぎ、また財産の保全を図ることで、市民等の安心で安全な生活環境を確保することを目的として、平成２１年１月１日より「彦根市路上喫煙の防止に関する条例」を施行しています。

主な内容

路上喫煙の防止に努めなければなりません。

禁止地区においては、路上喫煙をしてはいけません。

禁止地区で喫煙をしていると

↓

必要な措置をするよう**指導**します。

路上喫煙禁止区域

(1)駅前お城通り　　･･･　JR彦根駅前から彦根城まで道路
(2)特別史跡彦根城跡内　　･･･　彦根城跡内および接する道路
(3)夢京橋キャッスルロード　･･･　彦根城から四番町スクエアまでの道路
(4)四番町スクエア　　･･･　一帯
(5)彦根駅東口駅前広場　　･･･一帯

（６）生活排水対策

生活排水は、トイレ、台所、洗濯、風呂などから出される生活に起因する排水のことをいい、公共水域の汚濁原因の一つとしてあげられます。

この生活排水の対策を推進するためには、公共下水道をはじめとした生活排水処理施設の整備はもとより、各家庭から出される汚濁物質を削減するための環境保全意識の啓発活動などを総合的に推進していく必要があります。

彦根市では、公共下水道を主体とした整備を進める一方、合併処理浄化槽の設置による対策を実施しています。なお、農業振興地域の７地区は、農業集落排水施設事業が完了しています。生活排水対策は、平成１３年３月に改訂しました「彦根市生活排水対策推進計画」により基本方針や目標を設定し推進しているほか、市内を流下する主な河川については「彦根市環境基本計画および地域行動計画」において市独自の水質目標値を定めています。

① 公共下水道

琵琶湖流域下水道東北部処理区の関連公共下水道として平成３年に供用を開始し、順次整備を進めています。平成２２年４月１日現在では７４．７％の人口普及率となりました。

公共下水道の推移

年　度	下水道処理施設への総流入量（㎥／年）	本市から下水道処理施設への流入量（㎥／年）	下水道人口普及率（％）	処理区域内人口（人）	処理区域内世帯数（世帯）
Ｈ１３	16,196,992	5,159,399	43.7	47,395	17,864
Ｈ１４	18,473,307	5,494,992	48.2	52,362	19,529
Ｈ１５	21,580,520	6,395,654	53.6	58,350	21,534
Ｈ１６	24,045,134	6,954,878	59.7	65,104	23,788
Ｈ１７	25,383,407	7,168,554	63.4	69,619	25,293
Ｈ１８	26,877,639	7,559,160	66.6	73,413	26,557
Ｈ１９	29,025,346	8,414,020	70.4	78,120	28,151
Ｈ２０	29,900,252	8,572,726	72.2	80,390	28,936
Ｈ２１	30,522,158	8,860,045	74.2	82,885	30,142
Ｈ２２	―	―	74.7	83.361	30.916

・人口普及率、人口、世帯数は４月１日現在

・下水道普及率＝ $\frac{\text{処理区域内人口}}{\text{行政区域内人口}}$ ×１００

② 農業集落排水

平成５年から供用を開始した新海地区をはじめ、７地区１３集落に農業集落排水施設が整備されています。

農業集落排水施設の整備状況

処　理　区 (供用開始年月)	処理区内人口（人）	使用人数(人)	供用率（%）
新　　海(H5.4)	701	694	99.00
南三ツ谷(H6.6)	683	672	98.39
本　　庄(H7.4)	1205	1167	96.85
服　　部(H7.4)	655	646	98.63
両　　浜(H7.4)	712	707	99.30
下 石 寺(H8.8)	376	355	94.41
稲　　里(H9.4)	668	634	94.91
合計（7 処理区）	5000	4875	97.50

（平成 22 年 3 月 31 日現在）

③ 合併処理浄化槽

合併処理浄化槽は、トイレからの排水だけを処理する従来の単独処理浄化槽とは異なり、生活排水を併せて処理する浄化槽で、公共水域への汚濁負荷が少なく、適正な維持管理により高い生活排水処理能力を有することや設置整備費用も比較的安価で短期間で使用開始できるなど生活排水対策として高く評価できます。

彦根市では、下水道などの面的整備が困難な区域あるいは整備までに時間を要する区域においては、合併処理浄化槽により対策を進めており、昭和６２年度から合併処理浄化槽の設置に対する補助制度を導入し、合併処理浄化槽の設置を積極的に推進しています。

浄化槽の設置状況

年　　度	単独処理浄化槽（基）	合併処理浄化槽（基）	うち補助（基）
Ｈ１３	0	250	132
Ｈ１４	0	226	128
Ｈ１５	0	253	115
Ｈ１６	0	180	91
Ｈ１７	0	170	70
Ｈ１８	0	179	37
Ｈ１９	0	143	33
Ｈ２０	0	131	35
Ｈ２１	0	100	27

※　平成１２年６月の浄化槽法改正により、単独処理浄化槽の新設は禁止されました。

（また滋賀県では、法より先行して平成１１年９月から単独処理浄化槽の設置を認めていません）

（７）自然環境

①　彦根市で大切にすべき野生生物

－レッドデータブックひこね－

彦根市では、平成 11 年 3 月に「彦根市環境基本条例」を制定し、環境基本計画を策定するにあたり、「彦根市の自然環境調査」を始めました。

本調査は、調査対象ごとに専門の指導員と一般市民の調査員とで植物、昆虫、淡水魚類、哺乳類、鳥類について調査し、環境基本計画策定後も引き続き、平成 16 年度まで調査を実施しました。平成 17 年 3 月には調査結果を「彦根市で大切にすべき野生生物」としてまとめ、平成 17 年 10 月に「彦根市で大切にすべき野生生物【概要版】」をカラー発行しました。

②　外来生物の被害と駆除

県内では外来生物の生息や繁殖が確認され、固有の生態系に影響を及ぼしています。外来生物としては琵琶湖のブラックバスやブルーギルなどが有名ですが、植物ではナガエツルノゲイトウやオオキンケイギク、動物ではアライグマやハクビシン等がいます。
アライグマやハクビシンについては農作物被害や家屋侵入などの生活被害も出ています。

彦根市では、平成２０年度から神上沼において、ボランティアの方々とともにナガエツルノゲイトウの駆除作業を行なっています。しかし、完全な除去はきわめて困難な状態で、刈り取った際に少量の茎が残っているだけで繁殖し、増えてしまいます。

このように野外に生息してしまった外来生物は、いったん定着すると根絶が難しく、どんどん生息域を拡げていきます。これ以上外来生物を増やさないためにも以下のような３原則を守る必要があります。

●外来生物被害予防３原則●

１．入れない
　～悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に**入れない**

２．捨てない
　～飼っている外来生物を野外に**捨てない**

３．拡げない
　～野外にすでにいる外来生物は他地域に**拡げない**

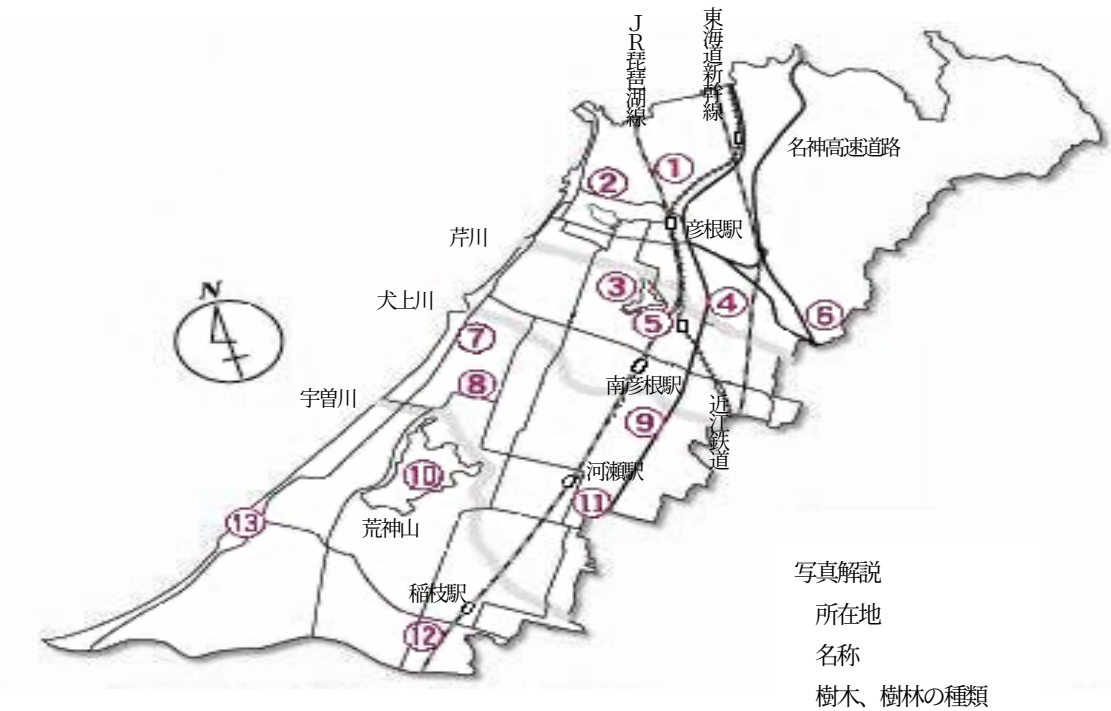
（８）彦根市保存樹木等

本市では、「彦根市都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する条例施行細則」第２条の規定に基づき、彦根市の健全な環境の維持および向上に寄与することを目的として、１０樹木および樹林３ヶ所を、それぞれ「保存樹」、「保存樹林」として指定しています。これらは、我々が生活する中において、心にやすらぎを与え、美観をかもしだしている貴重な存在です。

彦根市保存樹木等リスト

番号	指　定 年月日	所在地	名　称	保存樹			保存樹林	
				樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)	主要な樹種	土地面積 (m^2)
①	H7.6.5	古沢町 1130	井伊神社	ｼﾀﾞﾚｻﾞｸﾗ	167	6	―	―
②	H18.6.15	松原町	春日神社	ﾌｼﾞ	100	3	―	―
③	H18.6.15	後三条町 59	長久寺	ｳﾒ	410	5	―	―
④	S63.6.5	地蔵町 1	春日神社	―	―	―	ｼｲ、ｱﾗｶｼ、ｽｷﾞ	1,395
⑤	S63.10.25	岡町 128	新神社	ﾀﾌﾞ	335	21	―	―
⑥	S63.6.5	野田山町 291	金毘羅宮 （三本杉）	ｽｷﾞ	512 510 414	38 40 24	―	―
⑦	H7.6.5	八坂町 1420	善敬寺	ｸﾛﾏﾂ	218	7	―	―
⑧	S63.10.25	甘呂町 880	甘呂神社	―	―	―	ｹﾔｷ、ｸｽﾉｷ、 ｽｷﾞ	39,943
⑨	S63.6.5	広野町 69	春日神社	ｹﾔｷ	489	28	―	―
⑩	H18.6.15	清崎町	荒神山神社	ﾀﾞﾏﾉｷ	435	10	―	―
⑪	S63.6.5	南川瀬町 1196	法蔵寺	ｲﾁｮｳ	408	20	―	―
⑫	S63.6.5	上稲葉町 108	稲倉神社	―	―	―	ｹﾔｷ、ｸﾛｶﾞﾈﾓﾁ	1,314
⑬	H18.6.15	薩摩町 1453	善照寺	ﾏﾂ	205	12	―	―

彦根の指定保存樹木マップ



写真解説
所在地
名称
樹木、樹林の種類

④

地蔵町
春日神社
シイ、アラカシ、スギ

③

後三条町
長久寺
ウメ

②

松原町
春日神社
フジ

①

古沢町
井伊神社
シダレザクラ

⑨

広野町
春日神社
ケヤキ

⑧

甘呂町
甘呂神社
ケヤキ、クスノキ、スギ

⑦

八坂町
善敬寺
クロマツ

⑥

野田山町
金毘羅宮
スギ

⑤

岡町
新神社
タブ

⑬

薩摩町
善照寺
マツ

⑫

上稲葉町
稲倉神社
ケヤキ、クロガネモチ

⑪

南川瀬町
法蔵寺
イチョウ

⑩

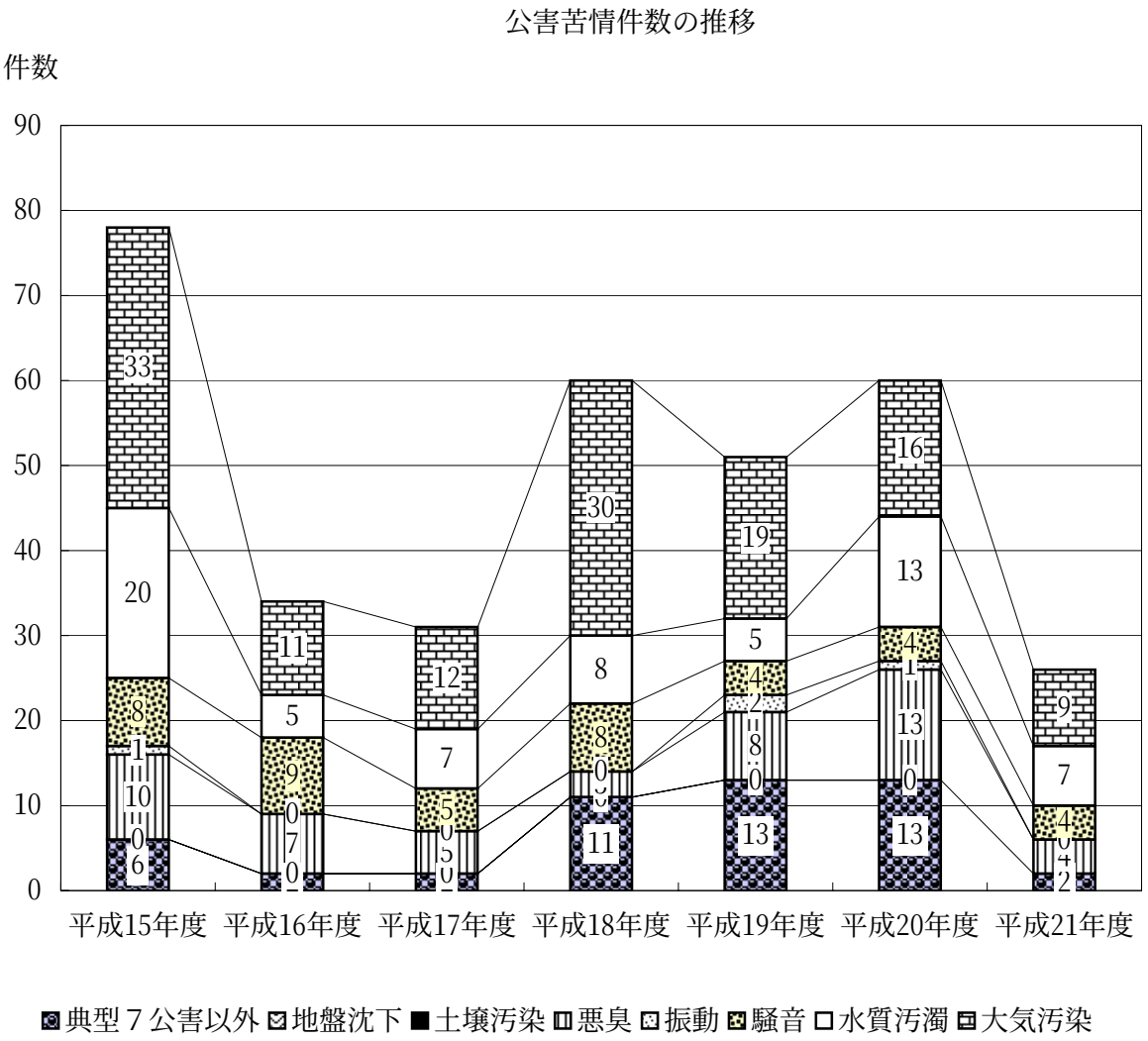
清崎町
荒神山神社
ダマノキ

4　公害防止対策

（１）公害苦情の状況

公害苦情件数

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
大気汚染	33	11	12	30	19	16	9
水質汚濁	20	5	7	8	5	13	7
騒音	8	9	5	8	4	4	4
振動	1	0	0	0	2	1	0
悪臭	10	7	5	3	8	13	4
土壌汚染	0	0	0	0	0	0	0
地盤沈下	0	0	0	0	0	0	0
典型７公害以外	6	2	2	11	13	13	2
計	78	34	31	60	51	60	26



（２）公害関係届出状況

工場や事業場は、著しい騒音や振動を発生するものとして政令で定められた「特定施設」を設置しようとするときには、事前に届け出を行うことが義務づけられています。

騒音関係特定施設別施設数

番号	施設種類	特定工場等数	特定施設数
1	金属加工機械	31	282
2	空気圧縮機等	132	1,188
3	土石用破砕機等	6	19
4	織機	8	231
5	建設用資材製造機械	7	7
6	穀物用製粉機	0	0
7	木材加工機械	7	38
8	抄紙機	0	0
9	印刷機械	6	50
10	合成樹脂用射出成型機	13	162
11	鋳型造型機	10	11
合　　計		220	1,988

（平成22年3月31日現在）

振動関係特定施設別施設数

番号	施設種類	特定工場等数	特定施設数
1	金属加工機械	30	462
2	圧縮機	112	600
3	土石用破砕機等	6	21
4	織機	8	214
5	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸﾏｼﾝ等	0	0
6	木工加工機械	1	1
7	印刷機械	6	45
8	ゴム等練用ロール機	1	43
9	合成樹脂用射出成型機	15	148
10	鋳型造型機	9	20
合　　計		188	1,554

（平成22年3月31日現在）

（３）公害防止および環境保全に関する協定

本市では、公害防止の一手段として、地域に応じた公害防止の目標値や具体的な公害対策等を内容に掲げた公害防止および環境保全に関する協定を下記工場との間で締結しています。また、「公害防止協定」から「公害防止および環境保全に関する協定」と呼び名を変え、随時見直しています。

協定締結工場一覧

（平成２２年３月３１日現在）

Ｎｏ	締　結　工　場　名	住　所	締結年月日	見直し日
1	(株）ナイキ彦根工場	彦根市彦富町７７３	S45.11.24	S59.12.18
2	沢村バルブ工業（株）川瀬工場	彦根市川瀬馬場町１２６２	S47．3．8	
3	（株）ブリヂストン彦根工場	彦根市高宮町２１１	S47．4.28	S52.11.30
4	（株）ピラミッド彦根工場	彦根市西葛篭町２３３	S47．5．1	
5	パナソニック電工（株）彦根工場	彦根市岡町３３	S47．5.13	H14．3.14
6	新日本フェザーコア（株）彦根工場	彦根市鳥居本町１９９０	S47．6．9	S53．7.12
7	（株）大和バルブ彦根工場	彦根市西葛篭町４０８	S47．6．9	S49．7.24
8	大丸工業（株）彦根工場	彦根市西葛篭町４２２	S47．6．9	S49．7.24
9	マルホ（株）彦根工場	彦根市高宮町２７６３	S47．6.27	H15.5.2
10	新神戸電機（株）彦根工場	彦根市川瀬馬場町８００	S47．7．3	H16.1.22
11	大日本スクリーン製造（株）彦根地区事業所	彦根市高宮町４８０－１	S47.10.14	H 4.4.6
12	昭和電工（株）　彦根事業所	彦根市清崎町６０	S48．5.25	H22.3.1
13	昭和アルミニウム缶（株）彦根工場	彦根市楡町３７０	S48．5.25	H22.3.1
14	キリンビール（株）彦根工場	犬上郡多賀町敏満寺１６００	S49．2.20	H22.1.4
15	コカ・コーラウエストプロダクツ（株）滋賀工場	愛知郡愛知川町愛知川３４８	S50．7.25	H21.3.5
16	清水工業（株）	彦根市楡町２５０	S51.10.28	H15.5.7
17	ダイニック（株）滋賀工場	犬上郡多賀町多賀２７０	S52．5．2	
18	大東電材（株）彦根工場	彦根市野口町１	S53.12．9	H13.11.6
19	角田鉄工（株）	彦根市日夏町２７８９	S55.12.25	
20	呉羽テック（株）河瀬工場	彦根市楡町２８０	S57．4.23	H20.4.1
21	タカタ（株）彦根製造所	彦根市彦富町１５４２	S59.12.18	
22	（有）杉本商事	彦根市南川瀬町７７１	S63．7．7	
23	伊奈精機（株）	彦根市服部町８４０	S63．9.17	
24	（株）三水	彦根市高宮町２２	S63.12.27	
25	（有）中野鉄工	彦根市高宮町２７５４	H 1．2．6	
26	東海漬物（株）	彦根市蓮台寺町３２	H 4．7.24	
27	佐伯金属（株）	彦根市金沢町１２３	H 4.10.27	H 5.11.17
28	（株）アルカット	彦根市高宮町２８１０	H 5．2.10	
29	（株）ヤマト精工	彦根市高宮町２７５７－１	H 6．4.25	
30	オリエンタル化工機（株）	彦根市高宮町３０２３	H 6．5.19	
31	パナソニック電工滋賀（株）	彦根市野瀬町２６９	H 7．6.22	H22.3.1
32	彦根愛知犬上広域行政組合	彦根市中山町３８１－１	H 8.11.18	H18．3．21
33	夏原工業（株）	彦根市高宮町２６８８	H 9．6.30	
34	フジテック（株）滋賀製作所	彦根市宮田町５９１－１	H11．6.23	H15．5．28
35	タカタサービス㈱	彦根市金沢町１－７	H13．8.23	
36	㈱石川製作所	彦根市高宮町２６３０－１	H14.5.29	
37	日の出㈱	彦根市金剛寺町６０	H14.11.29	
38	琵琶湖流域下水道東北部浄化センター	彦根市松原町１５５０	H20.3.31	

5　環境保全に向けた取り組み

彦根市では、環境基本条例に則り、環境保全に向けた様々な事業を行なっております。ここでは、本市の環境行政の要である環境基本条例、その下位に属する環境基本計画および地域行動計画の全容を説明し、平成２１年度に行なった主な取り組みを紹介していきます。

（1）環境基本条例

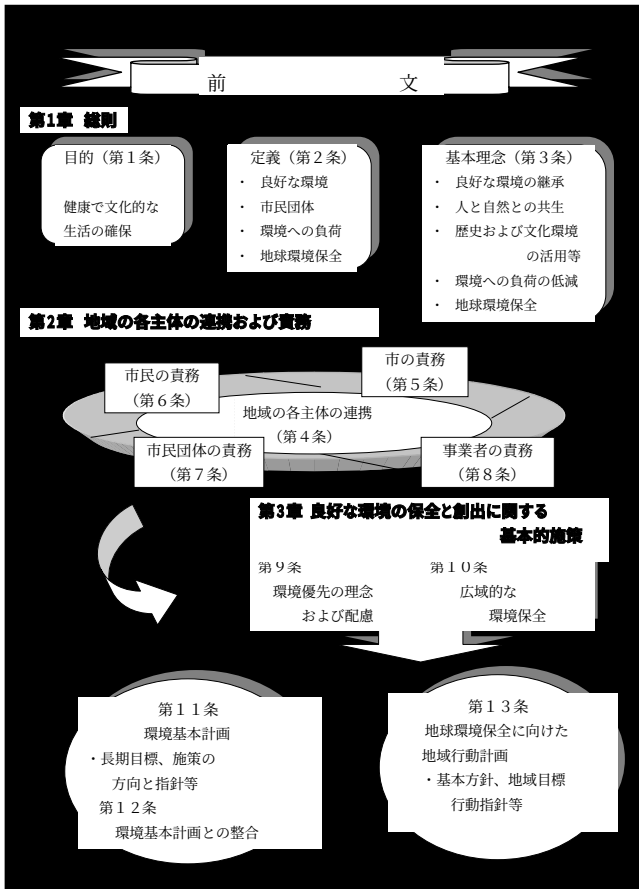
彦根市は、豊かな自然と長い歴史に刻まれた文化を礎に、恵まれた環境の中で湖東地方の中心都市として発展してきました。

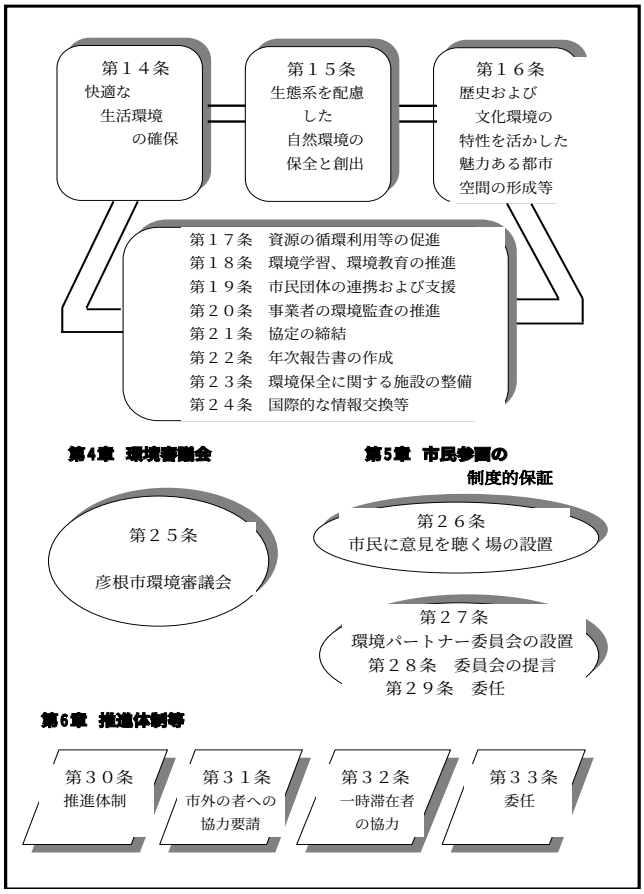
しかしながら、近年の社会経済活動の進展により、産業や生活の様式が変化し、利便性が高まる一方で、資源やエネルギーの大量消費、生活排水による水質汚濁、廃棄物の増大などの環境問題が生じてきました。さらに、地球温暖化現象や生物多様性の危機など、地球規模の環境問題も指摘されるようになってきています。

国においては、平成５年に「環境基本法」を、県においても平成８年に「滋賀県環境基本条例」を制定されるなど、国をあげて環境問題に取り組む枠組みが整備されてきました。

こうした中で、本市においても環境保全に関する理念や基本方針を明らかにし、市民のすべてが共通の認識をもちながら対処していくことが大変重要となってきました。こうした認識に立って、地域の社会的自然的条件に応じた取り組みを総合的計画的に推進することと併せ、良好な環境の保全と創出を基本に、地球環境をも視野に入れた施策を積極的に推進していくため、平成１１年３月に彦根市環境基本条例を制定しました。

彦根市環境基本条例の全体構成図





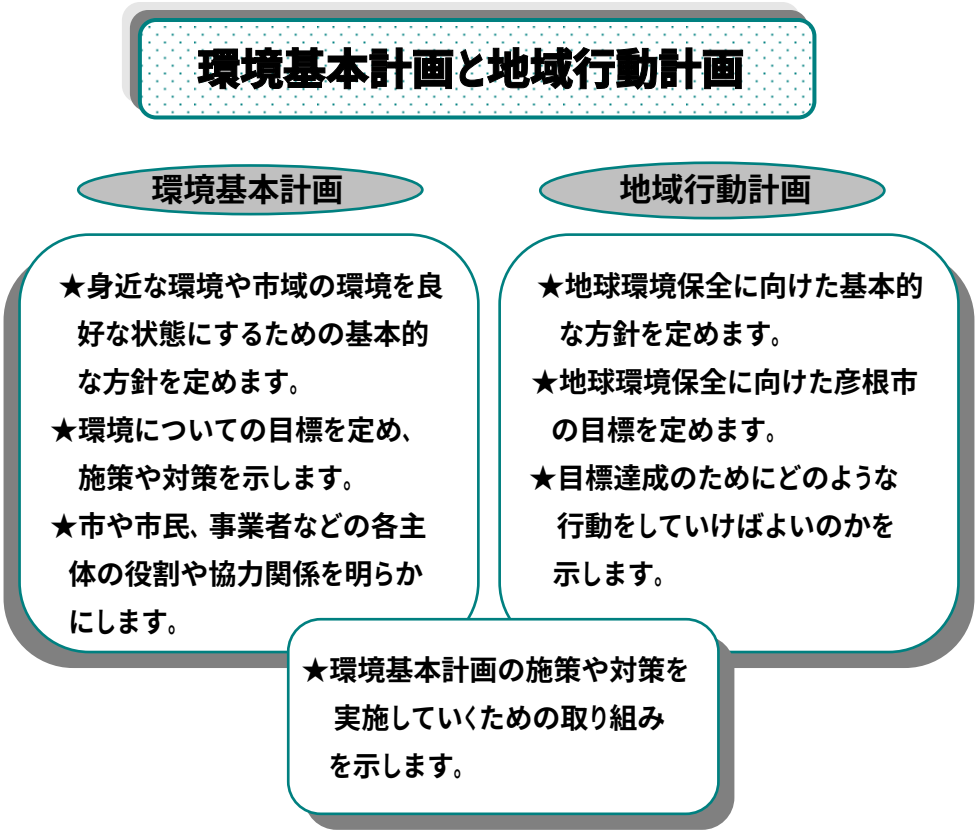
（２）環境基本計画および地域行動計画と関連組織

〇環境基本計画および地域行動計画

彦根市環境基本条例に基づき、平成１３年３月に「自然と歴史をいかし　恵みゆたかな環境をはぐくむまち　彦根」を環境像（長期目標）と定めた「彦根市環境基本計画および地域行動計画」を策定しました。環境基本計画は、良好な環境の保全と創出に関する長期的な目標や施策の方向と指針を設定し、今後の環境施策を推進していく上での具体的な道筋を明らかにしています。また、地域行動計画は、地球環境保全にも目を向けて地域の目標を設定し、市民・市民団体・事業者・行政の行動指針を整理し体系化しています。

計画は、５つの基本方向と２５の個別目標に整理し、その個別目標ごとに環境指標とその目標数値を掲げています。その中で、特に日々の生活や事業活動の中で、いつも念頭に置いておきたいものとして、代表指標の設定を行い、長期目標の実現に向けてさまざまな施策に取り組んでいます。

現計画は、平成２２年度を最終目標年とした１０年計画としているため、平成２３年度を基準年度とする第２期彦根市環境基本計画および地域行動計画(案)の策定について、平成２１年(2009 年)１月２９日に、市長から彦根市環境審議会に対して諮問があり、彦根市環境審議会での審議を重ねていただきました。



○環境パートナー委員会

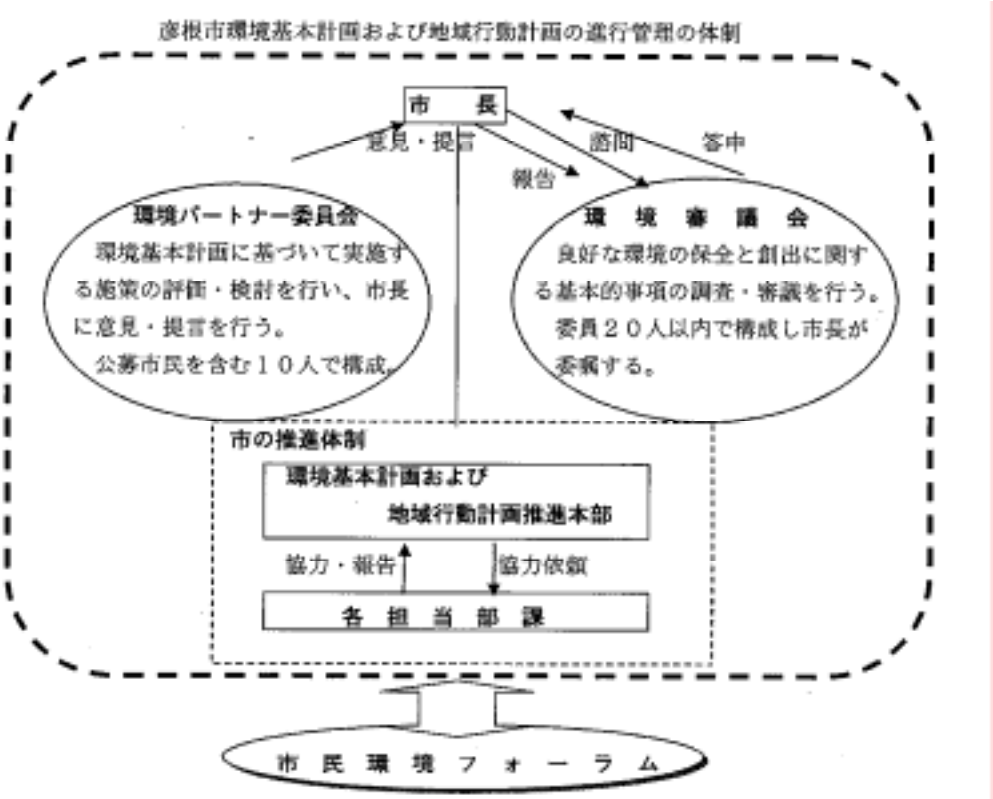
本市では、環境基本計画および地域行動計画策定後の平成１３年度から、計画に基づいて実施する施策について適正に実施されているかどうか、あるいは、目標にどの程度到達しているかなどの評価検討を行うための環境パートナー委員会を設置しています。

委員会では、年度ごとに評価をまとめた報告書（『環境計画の進展』（Ｘ年度彦根市環境基本計画および地域行動計画の年次評価報告書））を発行し、**市長に対して提言が行われ、市長はその提言を尊重し、次年度以降の施策に反映させていくこととなります。**

また、委員会の提言は、市長から彦根市環境審議会に報告され、その後の審議の参考にしていただきます。

彦根市環境基本条例第２７条

「環境基本計画に基づき実施される施策等に関し、その成果および実施状況について、市民参画の下で評価検討を行うため、環境パートナー委員会を置く。」



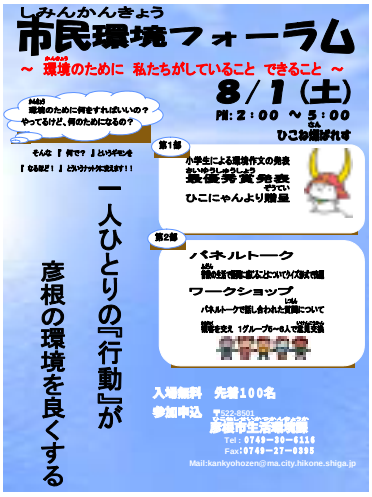
○市民環境フォーラム

彦根市環境基本条例第 26 条に基づき、市民のみなさまから環境について広く意見を聴く場として毎年「市民環境フォーラム」を開催しています。

H19 年度　10 月 20 日　第１回ごみ減量対策を考える―各地のごみ事情から学ぶ―
　　3 月 22 日　第２回ごみリサイクル対策の今後―これからの廃棄物対策について考える―
H20 年度　10 月 18 日　地産地消でエコひこね―低炭素都市の構築に向けて―
H21 年度　　8 月 1 日　第１回環境のために私たちがしていること、できること
　　3 月 14 日　第２回みんなでつくろう彦根の環境

平成２１年度実施状況

子どもから大人まで幅広い世代の人たちが意見交換することで、市内の自然環境や家庭での取り組みなどについて考えていただき、ここで得られた意見等は環境審議会や環境パートナー委員会に報告され、環境基本計画および地域行動計画に反映されます。



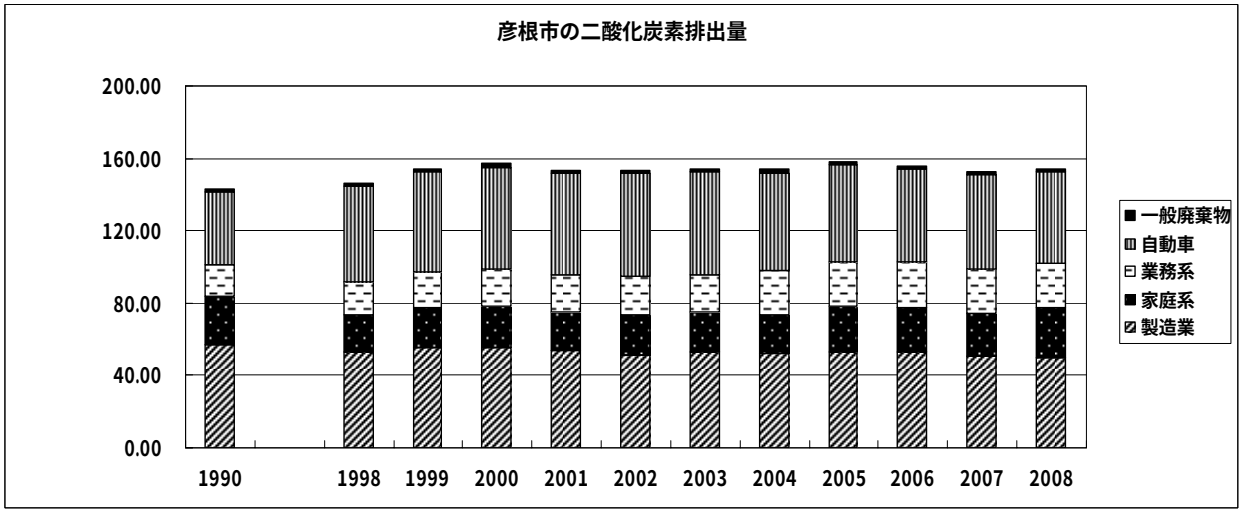
小学生による環境作文の表彰と発表や小学生を交えてのパネルトークやワークショップを行ないました。

彦根市環境審議会において第 2 期彦根市環境基本計画および地域行動計画の策定に向け審議された計画の理理念、目標、現状と課題等を中間報告し、意見交換会を行いました。

（３）低炭素社会の実現と持続可能な社会をめざして

・進行する地球温暖化

地球が一定の温かさを保てるのは、太陽光によって地表が温められ、その熱が大気中の二酸化炭素（CO_2）をはじめとする温室効果ガスに伝わるためです。ただし温室効果ガスの濃度上昇は、地球の温暖化を招きます。石油などの化石燃料の使用量の増大や吸収源となる森林伐採により、大気中の温室効果ガスの濃度は、この 100 年間で約 0.1%上昇しました。その結果、年間平均気温が地球上で約 0.7℃、彦根市では約 1.0℃上昇しています。

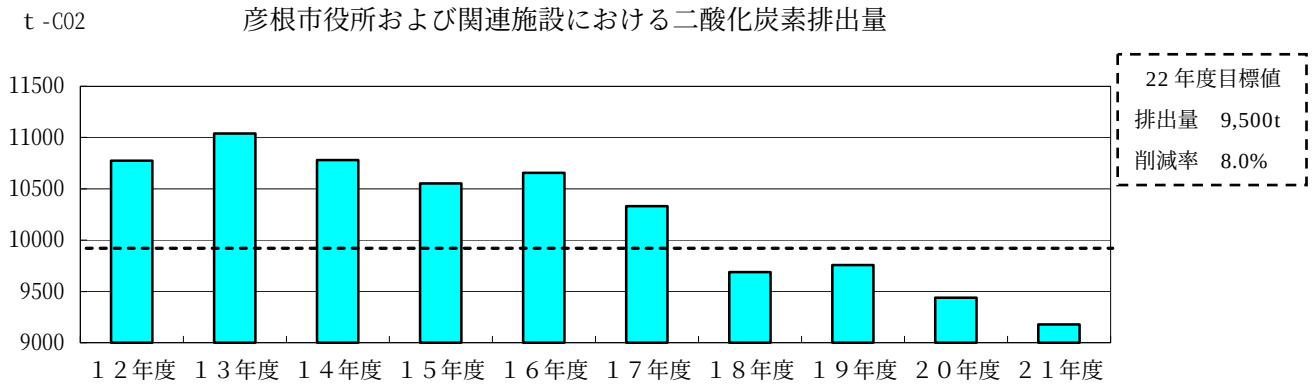


・地球温暖化を防止するために彦根市が取り組んでいること

彦根市では、地球温暖化が国際的な問題となっていることから、平成 20 年 7 月 7 日、「彦根市低炭素社会構築都市宣言」を実施し、宣言以降、彦根市ではさまざまな低炭素社会の実現に向けた取り組みを行っています。

平成 22 年度内の改訂に向けて「第 2 期彦根市環境基本計画および地域行動計画」を、一方市域での温室効果ガスの具体的な削減をめざした温暖化対策の地域推進計画を、同じく市の事業によって排出される、温室効果ガスの削減について数値目標を設定した「第 2 期彦根市温室効果ガス抑制等実行計画」を、それぞれ策定するため作業を進めています。また削減をより効果的にする手法として、平成 14 年 9 月には「ISO14001」の認証取得を行い、環境に関する計画を進行させる手段として活用するなど、積極的に温暖化防止の取り組みを行っています。

彦根市役所で実践した目標	平成 21 年度実績	評価
電気使用量を平成１８年度実績より 2.9%増加以下にする	0.2%増加	○
公用車燃料使用量を平成１８年度実績より 4.1%削減する	4.2%削減	○
石油類使用量を平成１８年度実績より 3.0%削減する	5.8%増加	×
上水道使用量を平成１８年度実績より 3.9%削減する	7.4%削減	○
事務用紙使用量を平成１８年度実績より 2.6%削減する	1.1%増加	×
一般廃棄物排出量を平成１８年度実績より 23.8%削減する	17.2%削減	×



	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
排出量（t－CO_2）	10,774	11,040	10,779	10,553	10,655	10,331	9,690	9,757	9,439	9,178
削減率	5.5%	3.1%	5.5%	7.5%	6.6%	9.4%	6.2%	5.6%	8.6%	11.2%

削減率は平成 17 年度までは平成 11 年度を基準年としています。

削減率は平成 18 年度からは平成 17 年度を基準年としています。

○低炭素社会の実現に向けて―平成２１年度の主な取組み

彦根市では低炭素社会の実現に向けて様々な取組みを行なっています。ここでは、引き続き行なっている取組み、Ｈ２１年度にはじめた新たな取組み等を紹介します。

★環境学習プログラムの運用

既存の総合学習に合わせ、小学４年生で学習するごみと水道、高学年で一環して学習する温暖化問題を体系化し、オリジナルテキスト「彦根の環境のおはなし」や国連大学が実施する「キッズＩＳＯ14000」テキストを使った学習プログラムを運用しています。

出前講座用テキスト

★地域への環境学習出前講座の開催

生涯学習や自治会会議の席に赴き、滋賀県温暖化防止活動推進員を講師に招く、あるいは職員自らが講師として、温暖化対策の重要性や具体的な行動について講義を実施しています。

環境出前講座実施回数		
Ｈ２１	小学校	４校　１２回
	自治会等	６回

キッズＩＳＯ授業風景

★彦根市低炭素社会構築推進補助事業の開始

市民に二酸化炭素排出量の削減を呼びかけると同時に、排出削減効果が期待される太陽光発電システムおよび高効率給湯器(潜熱回収型給湯器・ガスエンジン給湯器・ＣＯ２冷媒ヒートポンプ給湯器)に対する補助事業を開始しました。また、消防本部に１２ｋｗの太陽光発電設備を設置しました。

彦根市低炭素社会構築推進事業補助金		
Ｈ２１	太陽光発電システム	８５件
	高効率給湯器	１６０件

消防署本部太陽光パネル

★低公害車の導入

本市は平成１１年１０月、公用車にはじめて天然ガス自動車を導入し、その後、電気とガソリンを併用したハイブリッド車や、排ガス中の有害物質量を抑えた低排出ガス車を導入しており、平成２１年度現在、本市の低公害車は公用車全体の 38.0%となっています。

年度	公用車 保有総数	低公害車 保有台数	低公害車 保有割合
Ｈ１７	１９７台	２８台	１４．２%
Ｈ１８	１７４台	３２台	１８．３%
Ｈ１９	１７０台	４９台	２８．８%
Ｈ２０	１６７台	５５台	３２．９%
Ｈ２１	１７９台	６８台	３８．０%

★緑の分権改革推進事業への取組

総務省から地域固有の豊かな自然資源とそれにより生み出される食料やエネルギー、あるいは歴史文化資産の価値等を把握し、最大限活用する仕組みを創ることで、地域の活性化と人とひととの絆を再生させ、「地域から人材、資金が流出する中央集権型の社会構造」から、「地域の自給力と豊かになる力を高める地域主権型の社会」への転換をめざし、導入された事業です。循環型社会を核とする地域再生に、彦根市を含む湖東定住自立圏において取り組むことになりました。なお具体的な取り組みは、平成 22 年度より開始されていきます。

平成 22 年度に開始される事業

●湖東地域でのバイオマス資源の賦存量調査および利用可能性に関する調査

●甲良町を中心とした湖東地域における小水力発電を使ったクリーンエネルギー発電利用調査

●彦根市、愛荘町での太陽光発電を用いた市民共同発電所設置に関する調査

（４）良好な環境の保全に向けて

本市では、市域の環境保全、環境保護を推進するため、各種関係団体への加盟、および会議等へ出席し、市民に向けた情報発信を行なっております。定期的にイベント等を行い、市民の方に環境に関する様々な興味を持っていただけるよう啓発に努めています。

①エコライフの集い

ごみ問題と循環型社会の構築に関し、市民理解を深めていただくことを目的に、平成 20 年度から体験的学習イベント「エコライフの集い」を開催しています。平成 21 年度は、清掃センター敷地内において開催し、リサイクルステーションによるエコマーケット、空きびんなど廃ガラスを利用したガラス工芸体験等が会場内で実施され、約 900 人の方に来場いただきました。多くの方に、体験を通じて楽しみながら「ごみ減量（リデュース）・再使用（リユース）・再資源化（リサイクル）」（＝３R）について理解を深め、実践していただけるよう啓発を行なっています。

②琵琶湖ラムサール条約連絡協議会―水鳥観察会

琵琶湖の自然環境を守るために、滋賀県と琵琶湖沿岸市町により琵琶湖ラムサール条約連絡協議会が設立されました。

琵琶湖の湿地保全の推進のため、毎年 2 月 2 日の「世界湿地の日」にちなみ、県内数地点で一斉に水鳥観察会を開催するなどの活動をしています。平成 21 年度は、彦根市においては犬上川河口付近にて水鳥観察会を開催し、琵琶湖の美しさやその自然環境保全の重要性を市民に考えていただける機会を提供しています。

③滋賀グリーン購入ネットワーク

グリーン購入とは、商品やサービスを買い求めるときに、環境面から必要性を考慮して、できるだけ環境にやさしいものを選択することです。グリーン購入ネットワークはグリーン購入を普及・啓発するための活動を行っています。

本市では、設立当初から発起団体として参加し、現在は幹事として活動内容の検討に協力しているほか、県内の全市町が連携してパネル展示等を行う「びわこ一周『買うならエコ！』リレー」などを通じて普及・啓発に努めています。

（５）資源循環型社会の推進のために

資源循環型社会構築の手段として、古紙等のリサイクル活動を推進し、廃棄物の減量、資源化を図ります。ごみの正しい分別や減量化の推進のため出前講座等を実施し、啓発に努めています。

平成２１年度　新たな取組み

★古紙・衣類の資源回収

平成２１年１０月から資源の有効利用のため、希望された地域で新聞、雑誌、ダンボール等の古紙や衣類の行政回収を行っています。申込みは自治会単位で受付けており、市内自治会の約半分程度で実施されています。

（単位：kg）

新 聞	雑 誌	ダンボール	衣 類	収集合計
115,120	52,420	40,350	30,010	237,900

〔H21 年 10 月から H22 年 3 月までの収集量〕

★簡易生ごみ処理普及事業

地域循環型生活推進事業の一環として、バイオ菌を活用した簡易生ごみ処理事業を市民団体に委託することにより、高価な機器や電力等を使用しない安価で安全な生ごみ処理を市民に普及し、地域活動の活性化を図るとともに、ごみの減量と地球にやさしい低炭素社会づくりを目指します。

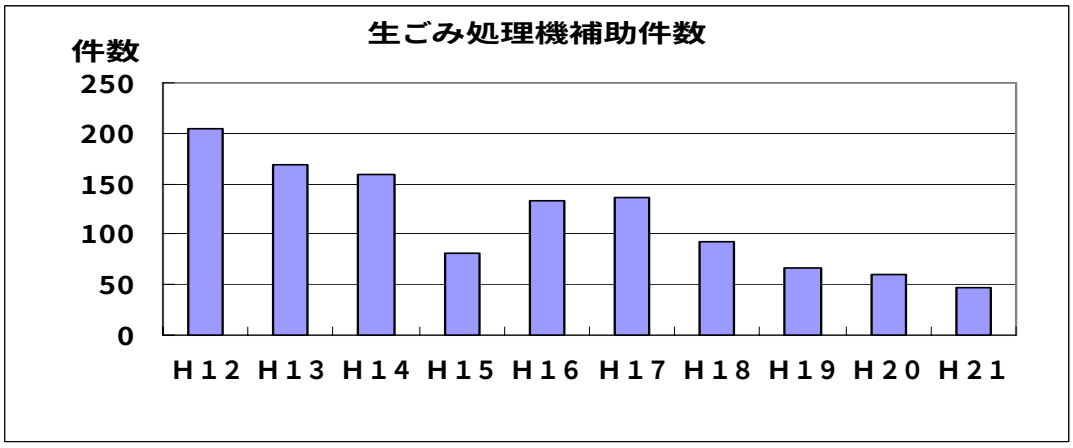
主な事業内容は、バイオ菌を用いた簡易生ごみ処理の登録会員を募集し、会員は生ごみ処置容器を１個につき 500 円負担し、ぼかし肥料の製作、配布を行います。平成２１年度では１５名が会員登録をしています。

平成２１年度以前から継続して行っている取組み

〇家庭用生ごみ処理機補助事業

生ごみは、分別がきちんとできていれば、堆肥化や飼料化などにより再生利用することが技術的にも可能な資源という側面を持っています。そこで、本市では、家庭から生じる生ごみの自家処理への関心を高めるとともに、ごみの減量と 再資源化の推進を図るために、生ごみ処理機を購入していただいた方に、その費用の補助を行なっています。

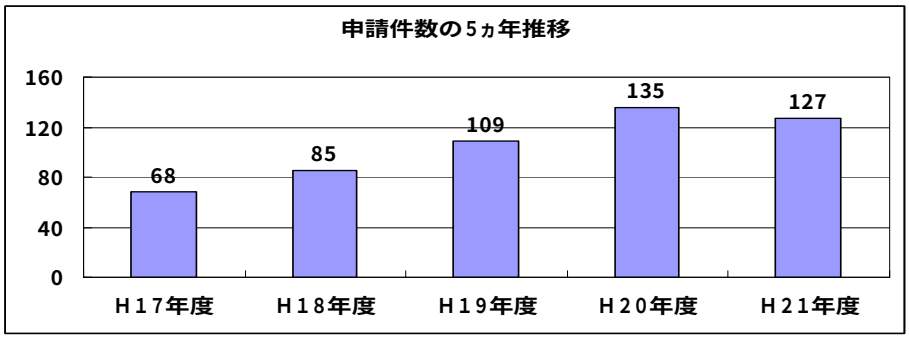
年度	Ｈ１２	Ｈ１３	Ｈ１４	Ｈ１５	Ｈ１６	Ｈ１７	Ｈ１８	Ｈ１９	Ｈ２０	Ｈ２１
件数	204 件	169 件	159 件	81 件	133 件	137 件	92 件	67 件	60 件	47 件



○集団回収とリサイクル活動推進事業奨励金

リサイクルやごみ問題に対する市民の皆様への広報や、ごみの減量を推進するために、資源回収活動を行う団体に対しまして、奨励金を交付しています。

具体的には、「新聞」「雑誌」「ダンボール」「紙パック」「繊維類（古着、古布等）」を回収し、彦根市内に事業所を持つ再生資源回収業者（古紙回収業者）に処分を依頼し、業者より発行された、計量証明書など、回収された業者名のわかる書類を添えて市に申請をいただくと、回収量に応じ奨励金を交付するという制度です。



※回収量はP36　第３章（５）廃棄物②資源化量および資源化率をご参照ください

○清掃活動の実施

地域の環境美化とごみの散乱防止を図るため、市民や企業、ボランティア団体等が一体となり清掃活動を実施しました。

・平成２１年　５月３１日(日)
　「ごみゼロ大作戦」…曽根沼緑地公園、宇曽川両岸
・平成２１年　６月２８日(日)
　「びわ湖の日」　　…松原水泳場から長曽根湖岸
・平成２１年１２月　６日(土)
　「環境美化の日」　…犬上川河川敷沿い

○不法投棄の防止対策

不法投棄の未然防止と早期発見に努めるため、不法投棄監視員を設置するほか、緊急雇用創出特別推進事業による不法投棄防止パトロールを実施しました。

○清掃センター出前講座や施設見学の実施

ごみの分別や処理方法等を正しく理解していただくために、ごみの出前講座や清掃センターの施設見学を実施いたしました。

Ｈ２１年度実績

・出前講座…　自治会向け　　(約)１７０回　　―　ごみの説明等
　　市内全小学校(１７校　４年生対象)―　ごみ収集車の実演による説明
・施設見学…　市内全小学校(１７校　４年生対象)、市内中学校、県立大学等

（６）市民と取り組む環境保全活動

環境保全に関する市民団体の自主的活動は、環境基本条例においても重要な位置付けにあります。
ここでは、いくつかの市民団体活動の取り組みを紹介します。

①快適環境づくりをすすめる会

快適環境づくりをすすめる会（以下「すすめる会」）は昭和５９年７月１９日、環境問題に取り組む市内の団体と市の関係課が一堂に会し、環境問題を総合的にとらえ行動する団体として結成されました。

すすめる会は、「うるおい」や「やすらぎ」のある快適な環境をつくり育てていくため、市民の環境への意識を啓発することを目的として、年間を通じて多彩な実践活動を行なっています。

現在、約３０名の個人会員で構成しています。美しい環境を未来の子どもたちに引き継いでいくためには、皆が手を取り合って協力していくことが大切であると考え、豊かな自然を肌で感じる機会を創出するよう努めています。

平成２１年度快適環境づくりをすすめる会行事

活動日時	活動内容	活動場所	人数
５月２４日	彦根城樹木ウォッチング　オオトックリイチゴ	彦根城	42
６月　６日	ホタルの観察会	南地区公民館	21
７月１８日	標本づくり体験教室	雨壷山	0　※
７月２５日	ネイチャーアドベンチャー	男鬼町	23
８月　４日	川の生き物観察会	犬上川南青柳橋周辺	0　※
９月　６日	彦根城樹木ウオッチング　オニバス	彦根城	30
９月２３日	タカのわたり	佐和山	16
１０月１０日	キノコの観察会	佐和山	35
１月３１日	水鳥の観察会	犬上川河口	25
３月２１日	早春の草花観察会	鳥居本	24

※雨天のため中止

②彦根市環境保全指導員

彦根市環境保全指導員は、平成４年に彦根市が策定した「生活排水対策推進計画」に基づき、生活排水に関する啓発を地域において推進する指導者として市が認定した方々です。

現在６０名余りの方に認定証を交付しており、市内の河川水路の水質調査・ホタルの調査、小学校への環境出前講座など身近な水環境における環境啓発行事等で活躍されています。

・市民環境スクール

彦根市では環境保全指導員の養成講座として市民環境スクールを毎年開催しています。その内容は環境関連施設や市内工場の見学、環境講演、市内河川での水生生物の観察、水質測定法の学習などで、会員は運営に関わっています。わたしたちの周りの身近な環境、特に水環境について見つめ直し、環境問題を考えていきます。

平成２１年度市民環境スクール実績

	内容	日時	場所	参加人員
第１日目	環境講演	１月３０日（土）１３：３０～	ひこね燦ぱれす	25
第２日目	施設見学	２月１９日（金）１４：００～	県東北部浄化センター	17
第３日目	環境学習	３月１３日（土）１０：００～	高島・川端見学	27
第４日目	水質調査	３月２７日（土）１３：３０～	彦根清掃センター	21

Ｈ２１年度では新規参加者９名のうち７名に修了証を授与しました。修了者全員が環境保全指導員として参加されています。

③彦根自然観察の会

彦根自然観察の会は、多くの人に自然のすばらしさを知ってもらうための観察会を実施し、自然とのふれあいの場を提供しています。

また動植物の調査活動を継続して行っており、彦根を中心に湖東地方の植物の生育状況を調べてリストを作っています。21 年度は犬上川・荒神山・曽根沼・野田沼・青竜山（多賀町）の調査を行いました。

平成２１年度　彦根自然観察会行事

活動日時	活動内容
５月	彦根城樹木ウォッチングとオオトックリイチゴの観察
７月	昆虫の観察
９月	オニバスの観察と玄宮園の樹木ウォッチング
１０月	佐和山のキノコと自然観察
１１月	彦根城の石垣と自然観察

・彦根城オニバスプロジェクト

彦根自然観察の会では、彦根城に生育するオニバスを次の世代に残すために、普及活動、保護活動として「彦根城オニバスプロジェクト」を行なっています。彦根市役所前や若葉小学校、城西小学校の池ではオニバスを育てる活動を行なっています。金亀公園横の中堀では生育環境の整備と水質調査なども継続して行い、毎年、彦根市役所ロビーとビバシティ彦根でオニバスを広く知ってもらうためのパネル展示も行っています。

③リサイクルステーション運営委員会

リサイクルステーション運営委員会は、平成１２年５月、リサイクルに関心をもつ市内のボランティアの方々を中心に結成されました。銀座商店街にあるリサイクルステーションは廃棄物の減量とリサイクルに関する実践・啓発に取り組んでおり、事務所には不用品を希望者に提供するバザーコーナーを設けているほか、新聞・雑誌・古着等の資源回収、廃食油の回収や生ごみの堆肥化にも取り組んでいます。

また、家庭に眠る不用品や手作り品等を必要とする人に再利用してもらうことを目的として、月１回の割合で環境フリーマーケットを開催しており、毎回多くの出店者・来場者でにぎわっています。

【リサイクルステーション】
所在地：彦根市銀座町４－１９
開店時間：１０時～１６時（月から水曜）

④　エコフォスター活動

本活動は、公共的場所の美化および保全のため、県民、事業者等が当該場所を愛情と責任を持ってボランティアで美化清掃し、環境美化に対する県民等の意識の高揚を図るとともに、ごみの散乱を防止し、県民等と行政が一体となった地域活動を推進することを目的としています。

美化清掃活動を行おうとする団体は、県または市町と合意書を交わし、その合意書に基づいて定期的、継続的に一定の場所の美化清掃を行います。県または市町は、その団体の活動に対し、活動経費の支援を行っております。

淡海エコフォスター活動団体一覧　（県登録）

エコフォスター名	実施場所
日本マクドナルド彦根エリア	彦根停車場線ほか道路
緑とやすらぎのある新海浜を守る会	湖岸（新海浜）
ＮＰＯ法人芹川	芹川
大日本スクリーン製造㈱彦根地区事業所	多賀高宮線
港湾通りを美しくする会（湖東地域振興局）	彦根港彦根停車場線
伊奈精機㈱	大津能登川長浜線
八坂美岸愛好会（滋賀県水産試験場）	琵琶湖岸（八坂町）
ボランティアグループ久留美	上新海上稲葉線、愛知川ほか
㈱杉本商事・(有)杉本紙業	敏満寺野口線
㈱棚橋食品	彦根環状線
彦根夢京橋商店街振興組合	彦根近江八幡線
㈱高木造園	大津能登川長浜線
彦根道路㈱	三津彦根線

平成 22 年 3 月末現在

淡海エコフォスター活動団体一覧　（県登録）

エコフォスター名	実施場所
㈱橋本建設	三津屋野口線
㈱堤建設	大堀多賀線
㈱森音	彦根環状線
㈱コーエイ建設	彦根近江八幡線
那須緑地㈱グリーンクラブ	大津能登川長浜線
谷庄建設㈱	彦根城線
山甚建設㈱	彦根八日市甲西線
真の家庭運動推進滋賀協議会「サラン彦根」	湖岸、ﾎﾟｹｯﾄﾊﾟｰｸ、さざなみ街道
(有)玉川建設	彦根近江八幡線
㈱金沢工務店	高宮北落線
㈱正昇工業	高宮北落線
高宮スポーツ少年団	多賀高宮線
森秀電設㈱	敏満寺野口線
青年環境ＮＰＯ「ＬＥＡＦＳ」	犬上川（犬上川橋～開出今橋両岸）
西肥田ニコちゃんクラブ	宇曽川の堤防
一圓テクノス㈱	彦根環状線くすのき通り
大堀町グリーン会	芹川および平田川
新神戸電機㈱　彦根営業所	三津屋野口線、三津彦根線
ＮＴＴ西日本滋賀支店　彦根	彦根近江八幡線
小泉八王子倶楽部	彦根環状線
有限会社須賀造園	県道新海上稲葉線
三津ボランティアサークル「かつとり」	県道三津彦根線
HIKONE キレイキャンペーン隊	県道５１７線
田附町ボランティアさわやかクラブ	県道新海上稲葉線
松居建機	小野川（彦根市宮田町地先）
丸橋建設株式会社	多賀高宮線
春日建設株式会社	犬上川

平成 22 年 3 月末現在

彦根エコフォスター活動団体一覧　（市登録）

エコフォスター名	実施場所
彦根雨壷山・護林会	彦根千鳥が丘公園
荒神山を愛する仲間の会	荒神山林道および荒神山周辺
滋賀中央信用金庫	京橋交差点～滋賀大学交差点
大東電材㈱彦根事業所	中山道（葛籠町～出町）
独立行政法人国立印刷局彦根工場労働組合	おさつ街道（岡町郵便局～南彦根駅前）

平成 22 年 3 月末現在

７．用語の解説

ＩＰＣＣ（Intergovernmental Panel on Climate Change）

気候変動に関する政府間パネル（ＩＰＣＣ）は、世界気象機関（WMO）と国連環境計画（ＵＮＥＰ）との協力の下に昭和 63 年（1988 年）に設立された。その任務は、二酸化炭素等の温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の科学的・技術的（および、社会・経済的）評価を行い、得られた知見を、政策決定者始め、広く一般に利用してもらうことである。数年おきに発行される「評価報告書」は地球温暖化に関する世界中の専門家による科学的知見を集約したものである。

ＩＳＯ１４００１

地球規模の環境保全意識の高まりを背景に、国際標準化機構（ＩＳＯ）が制定した環境管理システムと環境監査に関する国際規格。ＩＳＯ１４００１は、①環境保全・改善のための経営方針と行動計画の策定、②行動計画実行・運用のための環境管理体制の整備と監査・是正を継続することを盛り込んでいる。

一酸化炭素（ＣＯ）

炭素又は炭素化合物が不完全燃焼する場合に生じる無色、無臭の気体である。生理上極めて有害で、血液中のヘモグロビンと結合して酸素の補給を阻害し、ひどいときには窒息にまで至る。現在、おもな発生源は自動車（排気ガス）である。

化学的酸素要求量（ＣＯＤ）

海水や河川水の汚濁の度合いを示す数値で、水中の有機物や酸化されやすい無機物を、過マンガン酸カリウムで酸化したときに消費する酸素量を mg/l で表したものであり、数値が高いほど水中の汚濁物質の量も多いということを示している。

カドミウム（Ｃｄ）

銀白色で光沢のある柔らかい金属で、主として装飾用のメッキに使用されている。大量のカドミウムが長期間にわたって体内に入ると慢性中毒となり、機能障害を伴う肺障害（肺気腫）、胃腸障害、腎臓障害を起こし、あるいは肝臓障害や血液変化（白血球・赤血球の減少）が起こることもあり、水質汚濁による「イタイイタイ病」の原因物質とされている。主な発生源は、カドミウム精錬所、メッキ工場、電子機器製造業などである。

環境基準

環境基本法では「環境基準とは、大気の汚染、水質の汚濁、土壌の汚染及び騒音に係る環境上の条件について、それぞれ、人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」と定義している。環境基準は行政上の目標基準であり、直接の工場等を規制するための規制基準とは異なる。

クロム（Ｃｒ）

クロムは、空気及び湿気に対しては極めて安定で、硬い金属であるので日用品、装飾品をはじめとして腐食防止のメッキ等に広く利用されている。クロム化合物のなかで三価クロム（Cr^{3+}）の毒性は、ほとんど無視できるが、クロムの毒性が問題になるのは六価クロム（Cr^{6+}）の化合物であるクロム酸、重クロム酸の塩である。クロム酸は、皮膚、粘膜の腐食性が強く、体内に吸収されたクロムイオンは細胞毒として作用していることが知られており、クロムイオンを含む水の摂取が続けば、肝臓のほか腎臓及びひ臓に蓄積することが確かめられている。主な発生源はクロムメッキ工場、アンモニア製造工場などである。

公害

環境基本法（第２条）では７種類、つまり、事業活動その他の人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる大気の汚染、水質の汚濁（水質以外の水の状態又は底質が悪化することを含む。）、土壌の汚染、騒音、振動、地盤の沈下および悪臭という現象をとりあげ、これによって人の健康又は生活環境に係る被害が生ずることを定義している。

光化学スモッグ

光による化学変化でできたスモッグのことをいう。大気中の二酸化炭素に太陽光線の紫外線があたると原子状の酸素（O）ができ、これが酸素分子（O_2）と反応し、オゾン（O_3）ができる。オゾンが炭化水素と反応するとアルデヒド等の刺激性のある物質をつくる。更に一酸化炭素や二酸化炭素も加わり、しだいに複雑な化合物をつくって、ＰＡＮ（パーオキシアセチルナイトレート）という物質をつくる。オゾン、アルデヒド、ＰＡＮなどを総称してオキシダントといい、これが光化学スモッグの主成分である。光化学スモッグは、夏の日ざしが強くて風の弱い日に特に発生しやすく、その影響は、目がチカチカする、のどが痛くなるという人体影響のほか、植物にある種の症状を与えるなど広範囲にわたる。

水銀（Ｈｇ）

常温で唯一の液体金属である。水銀化合物の種類は多く、生体に対する作用のうえからは、無機水銀と有機水銀に大別される。無機水銀化合物とは金属水銀及び塩化第二水銀が主なものであり、その他、硫化水銀、酸化水銀、硝酸水銀、雷酸水銀などがあり、有毒で神経系をおかし、手足のふるえを起こしたり言語障害、食欲不振、聴力視力の減退をもたらす。有機水銀化合物の種類は非常に多く、酢酸フェニール水銀やアルキル水銀であるメチル水銀、エチル水銀、ジメチル水銀、ジエチル水銀などがあり、メチル水銀が「水俣病」の原因物質であることが知られている。

水素イオン濃度（ｐＨ）

水中の酸性やアルカリ性の程度を示す指標で、溶液１リットル中の水素イオン濃度の逆数を常用対数で表したもの。ｐＨは０～１４の間の数値で示され、ｐＨ７は中性を、７を超える値ではアルカリ性、７未満の値では酸性を示す。

生物化学的酸素要求量（ＢＯＤ）

化学的酸素要求量（ＣＯＤ）とともに海水や河川水の汚濁の度合いを示す指標で、水中の有機物が微生物によって無機化あるいはガス化されるときに必要とされる酸素量（mg/l）で表される。測定方法は、20℃で５日間微生物を培養した際に消費される溶存酸素量から算出される。この数値が大きくなれば、その河川などの水中には汚染物質（有機物）が多く、水質が汚濁していることを意味する。

全窒素（Ｔ－Ｎ）

生活雑排水として、一日一人当たり約 10ｇの窒素（全窒素）を出している。又さまざまな生物も死ぬと形づくっている有機態窒素（タンパク質、アミノ酸、尿素）が水中に窒素化合物として溶け込む。この窒素はりんとともに湖沼や河川を富栄養化させ、プランクトンの異常発生などの原因となる。

水中の窒素化合物は、有機態窒素、アンモニウムイオン（NH_4^+）、亜硝酸イオン（NO_2^-）、硝酸イオン（NO_3^-）などの形で存在し、水中の溶存酸素の濃度によって互いに形態を変える。

全りん（Ｔ－Ｐ）

水中のりん酸イオン（PO_4^{3-}）は生物体の分解により供給されるが、生活雑排水や肥料などの人の活動の影響により濃度は増える。一日一人当たり約 1～2ｇのりん（全りん）が環境中に排出され、全窒素と同様富栄養化の原因となる。

判定の目安（河川水）	きれいな水‥‥0.07 以下	少し汚れた水‥‥0.07～0.2
	汚れた水‥‥0.2～1.0	大変汚れた水‥‥1.0 以上

大腸菌群数

大腸菌群は、乳糖を分解して酸とガスを発生する好気性または通性嫌気性菌の総称で、常に糞便中に排泄されているので、その検査は糞便による汚染の指標となっている。

地球温暖化

大気中の二酸化炭素（炭酸ガス）やメタン、フロンガスなどは、ちょうど温室ガラスのように太陽からの光は通すが地球からの熱は逃がさない働きがあり、これを「温室効果」と呼んでいる。このまま二酸化炭素などが増え続けると温室効果のため、地球全体の気温が温暖化する可能性が指摘されており、極地などの氷床の融解や海水の膨張などのため、海水面が上昇することも考えられる。

チームマイナス６％

深刻な問題となっている地球温暖化の解決のために、世界が協力して作った京都議定書が平成 17 年 2 月 16 日に発行された。世界に約束した日本の目標は、温室効果ガス排出量の６％削減となっている。これを実現するための国民プロジェクトである。

低炭素社会

地球温暖化の大きな原因である二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を、大幅に削減し、自然界の吸収量と同等レベルにする（「カーボン・ニュートラル」という。）あるいは、自然界の吸収量以下レベルにする（「カーボン・マイナス」という。）ことにより、気候に悪影響を及ぼさない水準で、大気中の温室効果ガスを安定させると同時に生活の豊かさを実感できる社会をいう。

テトラクロロエチレン（パークレン）

トリクロロエチレンおよび 1,1,1-トリクロロエタンとともに低沸点の有機塩素系化合物である。いずれも脱脂性に優れるため機械の洗浄、メッキ、ドライクリーニングに、その他半導体工場などのハイテク工場で使用される。トリクロロエチレンおよび 1,1,1-トリクロロエタンは、いずれも人体に毒性の疑いがあり、テトラクロロエチレンとトリクロロエチレンは発がん性が指摘されている。現在、地下浸透したこれら有機塩素系化合物は地下水の汚染物質として問題になっている。

電気伝導度（ＥＣ）

水中の無機イオン（金属イオンやミネラル成分）の総量を表す指標であり、どれだけ電流を通すか、オームの法則による抵抗値（Ω）の逆数で表す。

排水、特に無機系（金属系）工業排水の電気伝導度は高く、排水によって汚れた河川の電気伝導度は高くなり、何も含まない純水は１μS／cm 以下となる。

ただし、温泉水や鉱泉水にはカルシウム、ナトリウム等の無機イオン（ミネラル成分）が多く含まれていて、これらの影響で電気伝導度が高くなる場合もあり、必ずしも汚れの程度を示すわけではない。

判定の目安（河川水）	きれいな水‥‥50～100	少し汚れた水‥‥100～200
	汚 れ た 水‥‥200～400	大変汚れた水‥‥400 以上

銅（Cu）

銅は、熱や電気を非常によく伝える性質があり、そのため食器や電線、電化製品などに広く使用されている。銅自身にはほとんど毒性はないが、あっても極めて少ない。しかし、銅粉末を生じる作業を行うときの最高許容濃度は 1ppm とされ、きわめて高濃度の銅粉により気道刺激が起こり、発汗、歯ぐきの着色が起こることが報告されているが、慢性中毒になるかどうかは疑問とされている。また、化合物についてはあまり問題は起こっていない。汚染源としては、自然界の岩石からの溶出、メッキ工場、金属加工工場、化学工場、非鉄金属精錬所などからの鉱山排水、工場排水、農薬（ボルドー液）などがある。

トリクロロエチレン

テトラクロロエチレンを参照。

鉛（Ｐｂ）

金属鉛は湿気に強く、空気中で安定なため、水道管やメッキに、また融点が他の金属に比べて低く、柔らかい性質のためハンダ溶接やスプリンクラーなどに使用されている。大量の鉛が体内に入ると、急性中毒を起こし腹痛、おう吐、下痢、尿閉などが表れ、激しい胃腸炎などで死亡することもある。少量の場合には、食欲不振、頭痛、全身倦怠、貧血などを起こす。主な発生源は顔料、塗料、化学工場、鉛蓄電池製造業などである。

二酸化窒素（NO_2）

一酸化窒素（ＮＯ）とその２分の１の体積の酸素との作用、あるいは硝酸鉛又は硝酸銅の固体を熱すると発生する。赤褐色、刺激性ガスとして最も特色がある。水に溶解しにくいので肺深部に達し、しかも吸収時の苦痛があまり烈しくないので、はなはだ危険で、急性中毒死の例が多く、作用は遅発生で高濃度ガス吸収後数時間以上経過して突然強い症状が現れる。120～150ppm では短時間でも危険である。障害は一般に一過性であり、慢性中毒の有無についてはまだ明らかでない。

ひ素（Ａｓ）

灰色で金属光沢があり、鶏冠石、石黄、硫ひ鉄工などに硫化物として含有されている。ひ素及びその化合物は生体に有毒で、ひ酸鉛、三酸化ひ素などは殺虫剤として農薬に用いられる。水質汚濁防止法でも有害物質として、人の健康の保護に関する項目に指定されており、ひ素中毒になると全身発疹、高熱、食欲不振等の症状を起こす。

BDF

Bio Diesel Fuel（バイオ・ディーゼル・フューエル）の頭文字をとった略称。廃食油の水分や不純物を取り除いて、触媒などを加えて精製してつくった燃料である。軽油に比べ、排ガスに含まれる硫黄酸化物が少なく、黒煙や二酸化炭素の発生が抑えられるとされている。

ppm

parts par million の略称で、濃度を表す単位として使用される。もとの量の 100 万分の 1 の量を 1ppm といい、水の場合は、1kg（約 1 リットル）中のミリグラム数、1t（約 1m^3）中のグラム数を表し、大気の場合は１m^3中 1cm^3のガス量を表す。なお、1ppb は 10 億分の 1 の量を表し、1ppm は 1,000ppb を表す。

浮遊物質量（ＳＳ）

水に溶けず浮遊している粒径２mm 以下の物質の量。数値が大きいほど汚濁が著しい。なお測定方法は、一定量の水をろ紙でこし、乾燥してその重量を計る。単位は通常 mg/l で表す。

ぼかし肥料

油カスや米ヌカなどの有機質肥料に山土や籾殻などを混ぜて麹のように発酵させたアミノ態肥料のこと。土、籾殻などで肥料分を薄め、さらに発酵させてぼかす（穏やかにする）ことから、ぼかし肥料と呼ばれている。ぼかし肥料の窒素成分であるアミノ酸が直接根から吸われるため、野菜自体の糖分が貯めやすくなる効果がある。

溶存酸素（ＤＯ）

水中に溶け込んでいる酸素量のことをいい、単位は mg/l で表す。一般に清浄な河川では、ＤＯはほぼその温度での飽和値（0℃、1 気圧で 14mg/l 程度で、温度が上がるにつれて数値が低くなり、25℃では 8mg/l 程度になる。）に達しているが、有機物などで汚濁されている水では、水中の微生物が有機物を酸化分解し、酸素を消費するため、ＤＯの値は低くなる。